

## 地方都市近郊農業の構造分析

### A Study on the Agricultural Structure around the Provincial Town

野 原 建 一

Ken'ichi Nohara

- (1) はじめに
- (2) 上田市域農業の構造
- (3) 地域別にみた農業構造の特質
- (4) 農家意識調査からみた上田市域農業
- (5) 小括

#### (1) はじめに

小稿では、共同研究「地方都市の存立構造」の一翼を担う「近郊農業の構造」について検討をくわえていきたい。<sup>(1)</sup>ここでいう地方都市とは、中央、すなわち東京都市圏に対置してつかう概念ではなく、むしろ、大都市圏という概念に対置してつかわれている。

戦後の「高度成長期」は、一方で「地方」と「大都市」の乖離をもたらした。換言すれば、それは、「過疎」と「過密」という社会経済現象でもあった。「地方」から「大都市」への人口流出は、あたかも「産業革命期」の“*urban exodus*”（「都市流出」）を想わせるものであった。とりわけ大都市には、人口集中に伴うさまざまな問題が生起した。過密問題は、その意味で都市問題として考えられる。

都市問題とは、資本主義——それは産業という言葉におきかえても——の高度に発展した段階で生ずる社会経済的矛盾である。具体的には、人口の過密化から生ずる住宅不足、交通混雑、生活環境基盤——それは社会資本という言葉の意味するが——の立ち遅れ、大気、河川の汚染等の公害問題などが指摘されよう。

したがって、都市に過密をもたらした社会経済的要因として高度成長を考えるとすれば、こうした都市問題は「高度成長の歪み」として把握することもできるのである。その「歪み」のもう一方の局面にたつのが、過疎である。人口の流出という社会的減少は、単に若年労働者数の減少にとどまらず、地方行財政の伸び悩みをはじめとしてさまざまな社会的機能が低下することを意味したのである。それは同時にまた、地方の社会的基盤が解体するほどの深刻さをともなったものであった。

小稿が取り扱う1970（昭和45）年以降とはこのような高度成長の嵐がふきあれたあとである。その嵐の傷あとを残しながら、たえず人材を都市へ供給しつづけた地方が、その後どのような歩みを見せたのか、それを農業構造の視点からとらえなおしたのが小稿である。言うまでもなく、その地方とは上田市をさしている。

ところで上田市にとって、1970年はひとつの画期でもあった。それは塩田町と合併することによって、市域、人口とも拡充し、市財政基盤の安定化をはかれるようになったからである。同時に、東信地方の中核都市としての機能もこうした合併によってより一層増大していったのである。

しかし、自然的諸条件に制約される農業は、むしろ地域的特色を活かす形で、上田市、浦里、塩田各農業協同組合を中心に展開していった。また一方、他の地域と同様、高度成長期以後の農業危機にもさらされてきた。それは「戦後農業の曲り角」を何度も体験したあとの再度の「曲り角」に直面しつづけている状況ともいえる。地方の中核都市である上田市ではあるが、その周辺である近郊農業は決して安定的なものではない。むしろ、過疎的局面をつねに内包しながら、危機的状況下

のなかで農業の構造的体質改善をはかろうとしているのが現状である。

そうした状況下で問題をより一層深刻化させたのが、政府の減反政策であった。零細規模での農業経営が中心の上田市では、減反政策がもたらした影響は大きいといえる。その意味で、1980年代は農業の方向を展望させることになるだろう。現在、農水省を中心に政府がすすめている「中核農家づくり」の展望が80年代にどうみえてくるのかも問題となろう。小稿では、そうした今後の農業のゆくえにもスポットをあて、農家がかかえる問題もあわせて検討していきたい。

## (2) 上田市域農業の構造

まず上田市域農業の全般的な特色からみていくことにする。そのため小稿では以下、1970年度から1985年度までにおこなわれた4回の農林業センサスの結果に基づいて検討してみることにする。

### (a) 農家数の推移

農家数が、戦後一貫して減少傾向にあるのは全国的レベルでも確認されているところである。なかでも、1970年から75年にかけての減少率は、全国平均で8パーセント強という高い数値をしめしている。とくに高い減少率をしめたのは、沖縄や北海道の20パーセント前後をはじめ、南九州、南関東などがそれにつづいている<sup>(2)</sup>。

ところが上田市では、それほど大きな減少をみせていない。1970～75年の減少率をみても、それは5パーセント弱にすぎない(第1表)。全国との比較では、長野県は東北地方に次いで低い減少率をしめし、上田市もその例外ではない。

第1表 農家数の推移

(単位：戸：%)

年	総世帯数 (A)	農家数 (B)	農家率 (B/A)	農家数増減 (前回対比)	
				実数	比率
1970	26,340	8,446	32.1	△399	△4.5
1975	29,343	8,050	27.4	△396	△4.7
1980	31,658	7,646	24.2	△404	△5.0
1985	35,742	7,255	20.3	△391	△5.1

(注)「上田市の農業」上田市役所(1986年)

しかし、減少率は低くても、着実に農家の絶対数が減少していることに変わりはない。農家率も20パーセントを切る段階にまできている。農業離れの現象が、高度成長期以後も継続しているのがわかる。

他方、上田市の専兼別農家数は、1970年代の急激な第2種兼業農家化を経過したあとは、比較的安定した推移をみせている(第2表)。1兼の急速な減少、1975年をピークにして減少をみせる2兼、同じく75年から漸増傾向にある専業、という推移は、全国的傾向とくらべて大差はない。ここでのポイントは、専業の漸増と2兼の減少という離農化現象をどう評価するのか、という点である。

第2表 専兼別農家数の推移

(単位：戸：%)

年	専業	第1種	第2種	計
1970	1,023(12.1)	1,988(23.5)	5,435(64.4)	8,446(100)
1975	790(9.8)	1,012(12.6)	6,248(77.6)	8,050(100)
1980	846(11.1)	974(12.7)	5,826(76.2)	7,646(100)
1985	854(11.8)	759(10.5)	5,642(77.7)	7,255(100)

(注)各年度「農林業センサス」農水省。以下、特別の断わりがないかぎり、「農林業センサス」に依拠。

次に農家人口の年令別推移をみてる(第3表)。ここでは全体的に、農家人口の高令化現象がみられる。それは、「15～29」才の若年労働者層の農業からの流出と無関係ではない。とくに「30～

第3表 年令別農家人口の推移

( ) %

	0～14	15～29	30～57	60以上	計
1970	7,768(20.4)	8,765(23.0)	14,682(38.6)	6,850(18.0)	38,065(100)
1975	6,634(19.1)	7,343(21.1)	13,678(39.3)	7,158(20.5)	34,813(100)
1980	6,010(18.7)	5,828(18.1)	12,940(40.2)	7,400(23.0)	32,178(100)
1985	5,422(17.8)	4,976(16.4)	11,929(39.2)	8,085(26.6)	30,412(100)

57」才の壮年層が漸減傾向をみせるなかで、若年層の急減ぶりが、80年代にみられるのが特徴的である。

高令化現象を65才以上でみるのは、現実を反映していない。というのは、現在、定年退職年齢は60才が一般的で、65才というのは年金支給年齢というにすぎない。したがって、高令化にともない定年退職後、農業に専念する「専門化」を考慮するとき、60才以上を目やすにするのが実勢になっていると思われる。ここではそういう意味あいもあって60才以上を高令者としてあつかうことにした。いずれにせよ、全国平均より高い割合で農家人口の高令化がこの上田市においてもすすんでいるのが現況である。

もっとも上田市のなかでものちにみるように、地域によって異なった様相をみせている。たとえば、農家率が24パーセントと低い神科地区とそれが60パーセントをこえる西塩田や室賀地区、それにちかい東塩田地区とをくらべてみよう。前者では1985年で60才以上が約25パーセントであるが、後者では、27～8パーセントをしめしていた。いわゆる純農村地帯での高令化が、すこしづつではあるが確実に早まっているのである。

さらに高令化現象のひとつとして考えられる定年退職後の「専門」の増加が注目される。それを「年金型専門」と仮に呼ぶにせよ、新しい専門の形態といえる。小規模または零細な年金型専門は、

農村における別の核家族を形成する。若年労働者の流出により、結果的にとり残された形ではあっても、それが農業構造の一角をしめることだけは事実である。零細な規模に分化し、土地を切り売りして耕地を縮少する年金型専門は、今後も増加する傾向にある。核化された高令者農業が、新たな問題となつてこよう。それは単に農業政策のみで解決できない社会問題としてとりあげられねばならない性質のものである。なぜなら、年金型専門はとかく社会的にまた、家族的にも孤立化する傾向にあるからである。それが過疎的集落で現象するとき、それはひとつの社会問題とならざるをえないだろう。

#### (b) 経営形態

では農家の経営形態はどうであろうか。経営耕地の規模で上田市を概観してみると、0.3 ha未満という零細規模農家が約40パーセントで、これに0.5 ha以下の層をくわえると65パーセントをこえるのである(第4表)。全国(北海道を除く)平均の0.5 ha未満の層が約44パーセントであるのに比べ、格段に高い数値といえる。したがって当然のことではあるが、経営規模が零細化であればあるほど生産経費の割には、収益はあがりにくいという結果をもたらす。むしろ、経費の割高が農家経営を圧迫する。その意味で2兼増加の必然性は、こうした理由、すなわち、零細農家の家計補充ま

第4表 経営耕地規模別農家数

(単位：戸：％)

年	0.3 未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0 以上	計
1970	2,214 (26.2)	1,944 (23.0)	3,269 (38.7)	1,009 (12.0)	10 (0.1)	8,446 (100)
1975	2,614 (32.5)	1,952 (24.2)	2,715 (33.7)	754 (9.4)	15 (0.2)	8,050 (100)
1980	2,818 (36.9)	1,920 (25.1)	2,256 (29.5)	626 (8.2)	26 (0.3)	7,646 (100)
1985	2,878 (39.7)	1,867 (25.9)	1,968 (27.1)	498 (6.9)	44 (0.6)	7,255 (100)

第5表 農産物販売金額1位の部門別農家数

年	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野 菜 そ の 他	畜 産	養 蚕	計
1970	4,754	126	75	694	489	374	921	7,433
1975	4,224	49	166	739	548	246	501	6,473
1980	4,162	80	170	880	536	193	264	6,285
1985	3,734	217	187	862	571	132	91	5,794

たは、他産業における低賃金を補充する意味での農業、ということになる。

その他の経営規模の階層をみてみると、特に目をひくのが、中位層である0.5～1.0、1.0～2.0の相対的低下と2.0以上の大規模農家の増加である。1980年から85年にかけて、それが一層はつきりしてくる。中位層が、零細規模と大規模とに分解しているようすが第4表にあらわれているのである。いわゆる農民層分解のゆるやかな両極分解、というパターンがここにみられる。

しかし、全体的には上田市の農業は、1975年を画期に急速な零細規模化にむかっている。そうした零細化は、農家経営のあり方をどう変えているのだろうか。その経営のあり方の動態を知る手がかりとして、販売金額1位の部門別農家数の推移がある(第5表)。

若年労働者の流出や高令化、そして零細化していくなかで上田市域の農業は、労働集約的な作業をとまなうものから、単純で省力化できる農作物へと転換している。同時に、付加価値が高くなる農作物へと傾斜していつている。端的な例は、養蚕業からの撤退と朝鮮人参等の工芸作物、巨砲、ふじ等高級果樹の増加がそれを物語っている。

省力化がよりすすんだ農作物としては、稲作がある。1970～85年の間、稲作への依存度はきわめて高い。80年代に入って、減反政策が強力におしすすめられた結果、麦・豆類が増加するが、基

本的には「土地持ち労働者」にとって、農薬、農用機械の導入がすすんだ稲作は、比較的とりくみやすい。上田市域の農業は、依然として稲作をその基盤にしているといえる。

ただ農用機械の普及状況は、全国平均とくらべた場合、それ程高くない。この10年間に、農用機械を所有する農家の割合は、50から70パーセントに増加したにすぎない(第6表)。ほぼ100パーセントに近い全国平均との差が大きい。動力田植機の普及も早いが、所有農家数の割合は、27パーセントで50パーセントに近い全国平均よりはすくない。その理由のひとつに先述した経営の零細化があげられよう。「機械貧乏」と喧伝されるような機械購入にともなう負債の経営圧迫は、それほど一般化していないのかもしれない。狭い耕地に機械導入のスピードは、上田市ではゆるやかな傾向をしめしている。

上田市の農業が、稲作に傾斜した構造を端的にしめしているのが、経営耕地種類別面積の構成比であろう。上田市全体の経営耕地面積の絶対数は、1970年の4,739 haから1985年には3,302 haへと減少している。しかし、その耕地の種類別をいま大別して、田、畑、樹園地と区分したとき、田のしめる割合が、1970年57パーセントから、85年には63パーセントに増大している。畑は16から20パーセントへ、逆に樹園地は、27から17パーセントへと減少しているのである。あきらかに労働

第6表 農用機械の普及状況

(単位：戸：台) ( )内は農家総数にしめる割合%

年	実農家数	歩行型	15馬力未満	15 ～ 30	30馬力以上	動力田植機
1975	3,944 (50)	1,685	2,943	3		429
1980	4,634 (61)	4,773	433	323	22	1,568
1985	5,129 (71)	5,428	636	591	51	1,983

第7表 臨時雇用形態

年	臨時雇		手間替・ゆい		手伝い		のべ人数
	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	農家数	のべ人数	
1970	4,184	86,003	2,138	19,254	1,314	13,730	118,987
1975	2,781	44,857	1,660	11,448	1,253	9,812	66,117
1980	1,471	20,828	602	3,502	708	5,922	30,252
1985	860	12,349	348	2,129	826	6,433	20,911

集約的な樹園経営がきらわれ、水田の単純かつ省力化可能な経営が好まれている。もっともその省力化は、機械導入よりも農薬、とりわけ除草剤の大量散布に依存している。果樹園においても防虫用農薬の大量散布が懸念されている。省力化や生産性向上に走ることが、逆に農業経営を否定してしまう危険性がそこにある。

零細化にともなう経営規模の縮小は、一方で臨時雇の数をも減少させる（第7表）。それだけではない。これまでの村落共同体的むすびつきの一環をなしていた手間替・ゆいの数まで激減してきた。逆に手伝いが、80年代から反転、漸増している。農家が経営の負担をできるだけ軽くしようとしている姿がみられる一方で、ムラの結合関係が弛緩していくようすも看取できるのである。伝統的農村社会の構造が、75から80年代にかけて大きく変化しているとみてよからう。

このような農村社会の構造的変化が、先述した高令者農業にどう影響をあたえるのか、孤立化する高令者農業は、ムラの結合関係が解体していく問題とかかわってどうすすむのか、零細農家経営の今後にかかる重要な課題といえよう。

### (3) 地域別にみた農業構造の特質

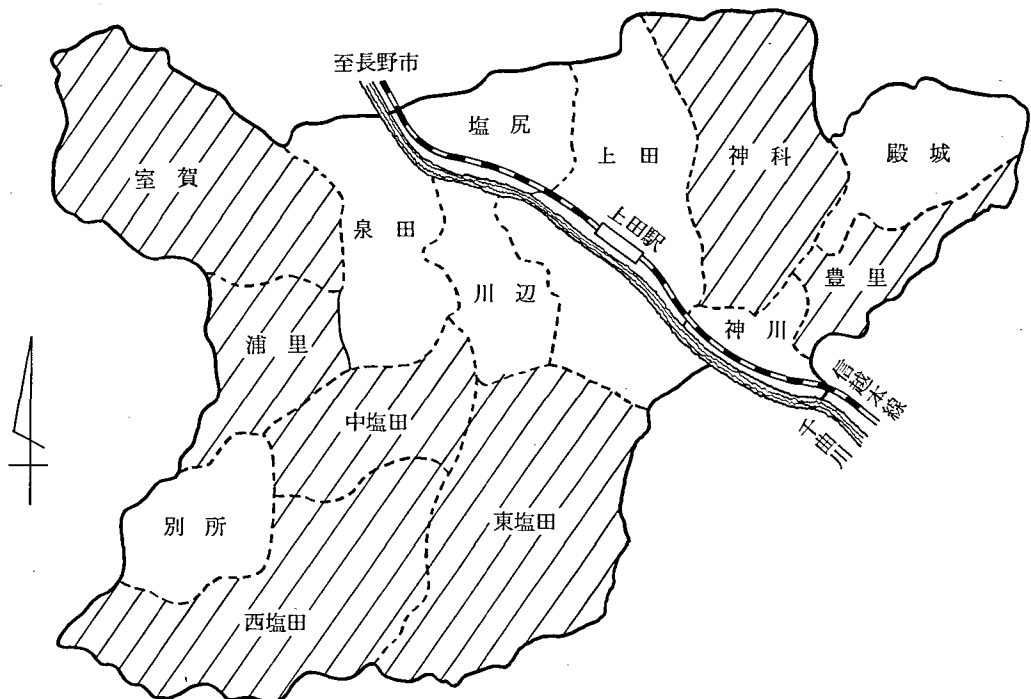
上田市の農業構造を概観したので、次に地域別にみた農業構造を検討してみたい。他の地方都市においてもそうだが、上田市の場合もいくつかの町村を合併して今日の人口11万都市に成長している。旧市街地の<sup>かみしな</sup>上田を中心に、東西に拡がりをみせている（第1図）。そのすべての地域について言及することはできないが、特色のある7地域を14地域から選び、これから分析してみたい。

この7地域は、のちにみる農家意識調査の対象地区でもある。意識調査の結果と照合するため、あらかじめ農林業サンセスによって地域的特色をあきらかにしておきたいのである。その7地域とは、東から<sup>かみしな</sup>神科、豊里、東塩田、中塩田、室賀、浦里、西塩田の各地区で図の斜線の入った部分である。ちょうど旧上田市街地を東西にはさんだ位置にある。順を追って概観しておこう。

#### (a) 神科地区

この地区の特色は、農産物販売金額1位の部門

第1図 上田市の地区別概略図



別農家数をみてもわかる通り、都市近郊農業にみられる積極的農家経営をおこなっているところである。すなわち、果樹類が80年から85年にかけて稲作を凌駕している。養蚕の凋落は別にしても、野菜、花き、畜産など換金性が高く、かつ付加価値の高い農産物が70年代から80年代にかけてとりくまれている（第8表）。

専業、第1種兼業の比重が他の地域とくらべて高いのも神科の特色である（第9表）。15～59才の若年、壮年層の比重が農家人口のなかで高い。経営耕地の規模別農家数をみても1ha層が安定し

た割合を75年以降しめている。

16才以上の就業状態をみると、男女とも自家農業だけに従事する割合は高い。たとえば、男子のそれが30パーセントに対し、女子が50パーセントをしめているのをみてもわかる通り、農業における婦人の役割の大きさがうかがえる。

農家総数の減少が、80年代に入って急速に早まりつつあるのは、この地区が、上田市の住宅地として開発がすすんでいるためである。したがって、農家率も24パーセントと低い。逆に人口は、80～85年の間20パーセントあまり増加している<sup>(3)</sup>

第8表 神科地区農産物販売金額1位の部門別農家数

年	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜・その他	畜産	養蚕	計
1970	456	16	1	327	12	40	82	934
1975	369	1	1	332	17	22	28	770
1980	387	3	1	366	35	19	8	819
1985	338	3	0	366	27	13	3	750

第9表 神科地区専業別農家数

年	専業	第1種	第2種	計
1970	153 (15.4)	384 (38.6)	458 (46.0)	995 (100)
1975	111 (11.5)	177 (18.2)	682 (70.3)	970 (100)
1980	130 (14.1)	156 (16.9)	638 (69.0)	924 (100)
1985	126 (14.4)	130 (14.9)	617 (70.7)	873 (100)

第10表 豊里地区専業別農家数

年	専業	第1種	第2種	計
1970	62 (14.3)	158 (36.6)	212 (49.1)	432 (100)
1975	57 (13.5)	71 (16.8)	295 (69.7)	423 (100)
1980	65 (15.7)	69 (16.7)	280 (67.6)	414 (100)
1985	48 (12.0)	67 (16.8)	284 (71.2)	399 (100)

第11表 豊里地区農産物販売金額1位の部門別農家数

年	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果樹類	野菜・その他	畜産	養蚕	計
1970	314	8	0	10	49	11	27	419
1975	264	1	0	26	48	6	14	359
1980	252	1	0	70	51	7	5	386
1985	218	16	0	84	31	2	3	354

### (b) 豊里地区

神科に隣接し、近年、商業・住宅地として開発されているところである。また豊里は、神科と類似して、専業および1兼の比重が高い(第10表)。ただ神科ほど果樹に特化しておらず、野菜、花き、稲の比重は高い。とくに稲のしめる割合は高く、その分農用機械の導入率は、神科より高い(第11表)。

たとえば、農用機械の普及状況を見ると、機械所有農家数の割合が、神科74パーセントに対し、豊里は84パーセントと高い。また、動力田植機の所有は豊里が圧倒的に多い。

経営耕地の規模別農家数をみると、0.5～1.0 haと1.0～2.0 ha層がそれぞれ38と11パーセントを占め、半分以上が0.5 ha以上の農家でしめているのが豊里地区の特色である。

この地区も神科同様、宅地化がすすみ、80年から85年にかけて約14パーセントの人口増がみられる。宅地開発は、農家経営規模に影響をあたえることにもなった。

### (c) 室賀地区

この地区の特色は、経営耕地規模別農家数の推移をみてもわかる通り、0.3未満層が半数ちかくをしめている点である(第13表)。そのことがそのまま専兼別農家数に反映している。すなわち、専業と兼1の比重が低く、2兼が84パーセントと高い割合をしめている。

農産物は、稲作に集中してはいるが、果樹、野菜、畜産等という農産物にとりくんでいるようすがうかがえる(第12表)。地形は山間地が多く、そのため養蚕はこの地域の主要産業であった。現在、そのおもかげはなく、したがって、省力化のできる稲作に集中したものと思われる。恒常的勤務につく人は多く、農業の就業状態もそのため、自家農業だけに従事する人の割合は、全体に低い。

また、人口の増加は、浦里同様、80年～85年にかけて約3パーセント増をしめすにすぎず、変化の少ない社会構成をしめしているといえる。したがって、零細規模の農山村地区としての課題は多い。

第12表 室賀地区農産物販売金額1位の部門別農家数

年	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果 樹 類	野菜・その他	畜 産	養 蚕	計
1970	161	2	8	10	9	26	112	328
1975	164	7	7	9	21	19	41	268
1980	174	6	8	11	22	16	20	257
1985	152	23	6	10	18	10	5	224

第13表 室賀地区経営耕地規模別農家数

年	0.3 未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0 以上	計
1970	88 (23.2)	88 (23.2)	178 (47.0)	25 (6.6)	0	379 (100)
1975	134 (36.7)	93 (25.5)	118 (32.3)	19 (5.2)	1 (0.3)	365 (100)
1980	110 (31.0)	155 (43.7)	82 (23.1)	8 (2.2)	0	354 (100)
1985	155 (46.4)	107 (32.0)	64 (19.2)	6 (1.8)	2 (0.6)	334 (100)

### (d) 浦里地区

この地区は、室賀と隣接し、単独で浦里農協を維持しているところである。戦前、とくに昭和初期には農村経済更正運動のさかんな地域としても

知られている<sup>(4)</sup>。

浦里地区の農家経営は、室賀と類似している点がある。たとえば、経営耕地の規模別では、室賀ほど極端ではないにしても0.5 ha未満層が60パーセントをこえて零細化がすすんだ地区といえる。

そのため2兼化が室賀同様すすみ、84パーセントをしめている。

したがって、男子の就業状態をみると、自家農業だけに従事する人は23パーセントと低い。その分、婦人が自家農業に従事する割合は、40パーセントと高い。

農産物は稲作に特化しているが、他地区にみられるように減反のあおりをうけて、麦・豆類、野菜等の畑作が増加し、果樹も増加する傾向をみせている(第15表)。畜産の減少は、主として養鶏の減少による。

第14表 浦里地区経営耕地規模別農家数

年	0.3 未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0 以上	計
1970	96 (19.5)	110 (22.4)	219 (44.5)	66 (13.4)	1 (0.2)	492 (100)
1975	116 (24.1)	131 (27.2)	190 (39.5)	44 ( 9.2)	0	481 (100)
1980	136 (29.6)	149 (32.5)	141 (30.7)	33 ( 7.2)	0	459 (100)
1985	149 (33.1)	130 (29.0)	144 (32.1)	25 ( 5.6)	1 (0.2)	449 (100)

第15表 浦里地区農産物販売金額1位の部門別農家数

年	稲	麦・芋・豆・雑	工芸作物	果 樹 類	野菜・その他	畜 産	養 蚕	計
1970	305		3	43	7	41	53	452
1975	277	1	1	51	8	18	21	377
1980	285	1	0	77	10	15	10	398
1985	266	10	0	77	21	15	3	392

#### (e) 塩田地区

塩田地区は、中塩田、西塩田、東塩田に区分される。それぞれに特色のある農家経営がみられる。<sup>(5)</sup>

中塩田地区は、旧塩田町の中心的位置をしめていた経緯もあって塩田地区のなかでもっとも宅地化、商業化がすすんだところである。そのため農家の経営耕地面積も零細化していき、0.5 ha未満層が全体の6割ちかくをしめている。

農作物は、稲作に特化しているが、専業農家では、果樹や畜産に力をいれているところもある。また減反の影響で畑作地が多くなり、野菜、花きも増加している。農用機械の普及度は低い。

2兼化も塩田地区のなかではすすんでいるが、1980年代に入って専業化が漸増している。これは先述した年金型専業の増加によるものと考えられる。

西塩田地区も中塩田と同様の傾向がみられる。すなわち、小規模零細化、そして2兼化の進展が70年代から80年代にかけて顕著にみられる。<sup>(6)</sup>

農作物では稲作がやはり多いが、果樹、工芸作物が80年代に入って増加している。また、畜産も80年代に入って養豚を中心に特定の農家に集中するようになり、畜産専業化が展開している。西塩田は、中塩田と異なりその大半が山間地に位置し、そのため集落によっては、かなり過疎がすすんでいるところもある。それだけに高令化とともに過疎問題もこれからの課題となろう。ここでも婦人の農業にしめる役割は大きく、農業専従者の6割を婦人が担っている。しかし、定年退職後の男子が農業専従の数をわずかではあるが、ふやしているのも最近の傾向である。

東塩田地区は、中塩田、西塩田と若干異っている。とりわけ80年代に入って、工芸作物、とくに朝鮮人参の比重が高く、その他野菜、果樹など畑作への積極的にかかわりがうかがえる。

経営耕地規模別でみると、中塩田、西塩田にくらべ東塩田地区は、1.0～2.0 ha層の中規模層が約17パーセントである。また、2 ha以上層の比較的大規模な農家数が、1970年代以降すこしずつで



はあるが増加している。つまり東塩田では、中・西塩田にくらべそれ程零細化はすすんでいないといえる。

また、稲作に強く依存している中塩田と異なり工芸作物など幅広く畑作物に積極的にとりくんでいるたうすがうかがえる。それは就業状態にも反映している。自家農業だけに従事している男子の割合は塩田の中でもっとも高く30パーセントをしめている。もっとも女子が自家農業に従事している割合も高く46パーセントをしめている。

他方、農用機械の普及度も高い。大型農用機械や動力田植機が80年代に入って積極的に導入されているのは、先の経営耕地の規模の拡大と無関係ではない。神科、豊里が果樹等に活路をもとめているのに対し、東塩田は、工芸作物等に力をいれている。ただここにも「円高」の厳しい環境が農家経営を圧迫していることは否定できない。

塩田地区で東塩田の専業農家の割合は約16パーセントと高い。これは年金型専業ではない。それだけに東塩田の農業が、今後の塩田地区農業の浮沈を握る鍵となるであろう。

以上、簡略ではあるが上田市域の主だった地域についてその特質を概観した。これらを前提にして、次に同様の地域の農家について調査したアンケートの結果を検討してみたい。

#### (4) 農家意識調査からみた上田市域農業

本調査は、「地域農業の特色と活性化に関する意識調査」と題して、上田市、浦里、塩田の各農業協同組合にある「農家台帳」をもとに750戸の農家を無作為に抽出し、調査をおこなったものである(第16表)。この調査の目的は、「地域農業の特性を把握するとともに、今後の上田市域農業の発展を考える上での基礎資料をつくるため」である。はたして所期の目的が達せられたかどうか不安であるが、以下にその結果の主な項目について検討してみたい。

まず減反政策の影響からみていくことにしよう。一般的に上田市域では、稲作に依存する農家は多い。それだけに減反が農家経営を圧迫しているの

ではないかと思われた。第2図をみるとやはり、そうした予想が数字にあらわれている。なかでも東塩田は半数ちかい農家が、大幅な減収をうっている。次いで西塩田、浦里が大きな影響をうけている。ただ「わずかな減収」と答えた農家をくわえると、西塩田、東塩田が80パーセントをこえ、減反による収入減が顕著にでている。東塩田地区は専業農家の比重も高く、積極的営農を展開しているところだけにその影響は大きかったと思われる。これに対し、神科は果樹のしめる割合が多いこともあって、減反による影響はそれほどでない。また室賀も大幅な減収という影響はすくなくとも、わずかな減収というなんらかのマイナスをうっている農家が半数ちかくいることは、経営規模の零細化からくるものであろう。

ついで減反が農作業にどう影響をあたえたのかという点をみてみよう(第3図)。減反が農家にどういうけとめ方をされているのかをみたものである。「失望してやる気を失わせた」という深刻なうけとめ方をしているのが多いのは、浦里、東塩田、室賀である。「新しい農作物転換の機会をえた」という積極的評価をしているのと「影響

第2図 問：あなたの家では減反により収入面でどういう影響を受けましたか

	大幅な減収 38.5	わずかな減収 33.6	ほとんど影響なし 10.9	その他 2.7	わずかに増収 1.9	N.A. 12.4
合 計						
神 科	29.7	26.7	20.8	4.0	5.0	13.8
豊 里	38.6	31.6	14.0	1.8	1.8	12.2
室 賀	26.8	48.2	7.1	1.8	1.8	14.3
浦 里	43.4	26.4	9.4	3.4	3.4	19.0
中塩田	38.2	30.3	12.4	3.4	3.4	12.3
西塩田	44.7	39.6	3.9	1.3	1.3	10.5
東塩田	47.8	35.9	5.4	2.2	2.2	8.7

なし」をくわえたものでは、神科、豊里、中塩田が多い。したがって「農業のあり方を考えさせられた」とするプラスともマイナスともとれるうけとめ方もそうした動きとの関連で理解すれば、深刻な影響を受けた地域とそうでない地域の色わけが可能となろう。

つぎに政府が主導している中核農家育成の問題について農家はどうか考えているのだろうか。それをみたのが、第4図である。地域によって中核農家に対するうけとめ方はさまざまである。たとえば神科、豊里、浦里では2～3 ha層が自立できる適性規模の農家すなわち中核農家と考えている。それに対し、中塩田、西塩田、東塩田など塩田地区では、3 ha以上を想定している。興味深いのは、神科、豊里では、1～2 haでも中核農家たりえると考えている農家が20パーセントいることである。換金性、付加価値の高い商品作物を生産すれば、十分この耕地面積で自立専業が可能と考えているのかもしれない。

では、そうした規模での中核農家の育成が可能であるか、と問うてみると全体に答えは否定的であった（第5図）。とりわけ、室賀、神科で多い。

減反政策を一方で強力におしすすめた政府の農業政策、および現在の農業をとりまく環境で中核と称する規模での農家経営を維持することはかなり困難とみたのだろうか。それでも、豊里、西塩田では30パーセントちかい農家が可能と考えている。しかし、全体的にはそんな多数の支持をえておらず、中核農家に対する展望は、暗いといえそうだ。

それは「今後耕地面積を拡張する予定か」という問に対し、全体の6割以上の農家が「いいえ」と答えているのでもわかる。また、「今後どう農業をつづけていくのか」という類似の問に対し「現状維持」と答えた農家が、全体の6割以上をしめている点にもあらわれている。つまり、今後の展望は、現状を維持し、拡張する予定がないという消極的姿勢によって、中核農家の可能性をも否定したものになっている。現状の零細小規模の農家を維持することでさえも、厳しい状況下ではきわめて困難であるといえようか。

ただ「あなたの家の後継者はどなたか」という問に「息子」と答えた農家が6割以上、「娘」の8パーセントをくわえると7割以上の農家に「後継者」が存在する。あと継ぎがいないのは、わず

第3図 問：減反によって農作業にはどういう影響をあたえましたか

	新しい農作物転換の機会をえた	その他 1.9		
合 計	6.3 農業のあり方を考えさせられた 47.5	21.9 冬期してやる法を失った 12.5	12.5	N. A. 13.9
神 科	11.9 49.5	7.9 13.9	3.9	12.9
豊 里	10.5 47.4	21.1	10.5	10.5
室 賀	3.6 41.1	23.2	12.5	19.6
浦 里	5.7 37.7	24.5	15.1	17.0
中塩田	3.4 44.9	14.6	19.1	14.6
西塩田	3.9 56.6	17.1	9.2	11.9
東塩田	4.3 50.0	23.4	7.4	12.8

第4図 問：中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか

	1～2ha	2～3ha	3ha以上	その他 3.6	N. A.
合 計	11.5	30.9	37.6		16.4
神 科	20.8	38.6	25.7	5.0	9.9
豊 里	19.3	33.3	31.6		15.8
室 賀	5.4	30.3	35.7	1.8	26.8
浦 里	3.8	43.4	30.2	1.9	20.7
中塩田	6.7	13.5	55.1	4.5	20.2
西塩田	11.9	28.9	42.1		13.2
東塩田	8.7	32.6	39.1	5.4	14.2

かに12パーセントにすぎない。後継者という点でいえば、農業を維持していく展望は、当面の間あるといえよう。

正直にいえば、この問に対する答えは、もうすこし否定的、すなわち、あと継ぎがいない、と答える農家が、いるという農家数にせまると予想した。しかし、結果は後継者に悩む農家は全体の1割強にすぎなかった。そのためか、次に「農業後継者について今後どうすればよいか」という問が、ひどく間のぬけたものになってしまった。その答えは、やはり「各自が努力」というのが半分ちかくをしめた。そして「政府が考えるべき」という「後継者育成策」をもとめる答えは2割にも満たなかった。魅力ある、生活ができるゆとりの農業後継者を育てて欲しい、それを行政が主導すべきだという声が答えに反映してこなかったのである。自前でコツコツとやるほかはない、という諦めに似た気持ちがあるいは反映しているのかもしれない。

兼業農家が9割ちかくあり、なかんずく2兼農家が8割ちかくある上田市域では、農業以外の産業に就いて家計を補填する必要がある。むしろ現

状は、農家経営が、低賃金の恒常的勤務による家計を補填しているのである。土地、住宅に要する費用が、大都市圏にくらべれば安いとはいえ、他の消費財価格は同じである。生活の多様化は、生活経費の高騰をまねく。農業は、たとえその規模が零細であっても、耕地をもっている労働者にとってそれは生活を支える経済基盤である。たとえ低賃金でも、通勤距離圏に適当な勤務先があればあとは農業が生活、すなわち労働力の再生産を支えてくれる。上田市域は、そうした地域労働市場を形成しているところでもある。

意識調査のつづきをみていこう。そこでつぎに「農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくか」と問うてみた。回答者のほぼ7割強が「はい」と答え、「依存しない」と答えた4パーセントを圧倒している。これは農家の大半が、農業外収入を基盤にして農家経営を維持していこうという姿勢のあらわれと考えられる。

また、「上田市域で農業以外の収入源として何に期待するか」という問には、50パーセント強の農家が「各種製造業」と答えている。次いで観光、サービス業、小売業等である。製造業に対する根強い期待感があらわれている。同時に上田市域が単に東信地方の商業中心地というだけでなく、戦前、戦後を通じて精密機械、自動車部品、電機部品その他下請関係企業が進出しているところという認識があるためでもあろう。そこにはものをつくる、生産するという営みの確実性に対する信頼感も働いているかもしれない。製造業に期待するのが多いのは当然ともいえる。

ところで農協について農家はどんな感想と意見をもっているのだろうか。農協が地域農業にはたす役割は、長野県にかぎらずどの地方においても重要だからである。まず卒直に農協に対する感想からもとめた。すなわち「現在の農協の活動に満足しているか」という問からはじめた。回答者の答えは、「満足」が15パーセント、「不満」が17パーセント、「やや不満」がもっとも多い割合をしめしているが、その不満の比較的多いものは、第1に「営農指導が不十分」であること、第2に「購売価格が他業者にくらべて高い」こと、第3に「景気の動きに対応が遅い」などがあげられた。常農指導の内容は、当然地域によってさまざまで

第5図 問：あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか

	はい	いいえ	わからない	その他
合 計	12.1 19.8	38.7	26.9	N.A. 13.6
神 科	16.8	50.5	18.8	-3.0 10.9
豊 里	29.8	33.3	24.6	+1.8 10.5
室 賀	8.9	55.4	19.6	16.1
浦 里	15.1	39.6	26.4	18.9
中塩田	20.2	33.7	28.1	+1.1 16.9
西塩田	28.9	26.3	32.9	11.9
東塩田	18.5	33.7	35.9	11.9

あろう。きた購買価格は、肥料、農薬、農用機械、農具、施設関係その他多品目にわたるだろう。いずれも農家経営を支える重要なことからである。景気の対応はとくに野菜、花きなど換金性の高いものに強くもとめられるところである。

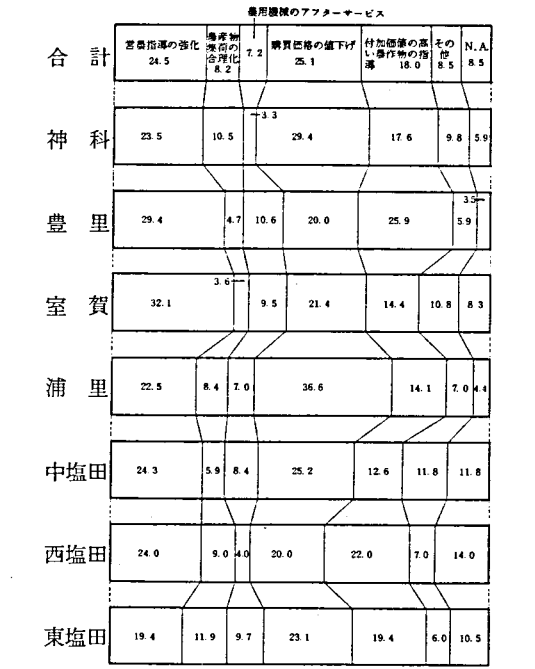
このような不満を前提にすれば、「今後農協は、どういう点に重点をおくべきか」という問には、先の不満への対応がもとめられるのは当然かもしれない。農協に力をいれて欲しい項目を多い順からならべてみると、「購買価格の値下げ」「営農指導の強化」「付加価値の高い農作物の指導」ということになる（第6図）。注目すべきは、「営農指導」の範疇に入る「付加価値農作物の指導」をくわえると、農家の半数ちかくが、農協に対し営農指導の強化をもとめているということである。そして営農指導の内容は、できるだけ省力化が可能でなおかつ付加価値の高いすなわち、収益性の高い農作物を指導して欲しい、という虫のいい要望でもある。

しかし当面、そうした要望が強いということであれば、農協は農業技術指導員の強化をはからねばならないだろうし、また技術講習の機会をふや

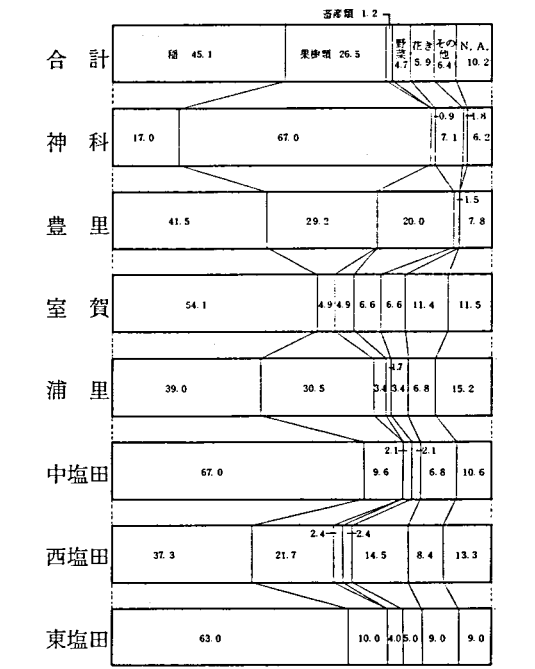
していく必要があろう。婦人の農業に従事する機会が多く、くわえて女性の高令化問題を考慮するとき、そうした農業専従女性が容易にとりくめるような営農指導がもとめられよう。農薬や農用機械の普及にともなう安全対策もその指導の重要な内容になろう。農協に対する依存度がきわめて高い長野県では、それだけに農家の信頼に応えうる体制づくりが必要になってくるのである。この上田市域においても今回の意識調査の結果から、農協が今後さらにきめの細かい対応を営農指導等を通じてもとめられていることがあきらかになったといえよう。

最後に、農家が今後どういう展望をもっているかについてみてみよう。まず「これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定か」とたずねてみた（第7図）。全体では、これまで同様、稲が多く、次いで果樹である。ただ地区ごとにみけると、それぞれの特色がよくでている。たとえば神科では果樹が圧倒的に多く、他方、中塩田や東塩田では稲が断然多い。豊里、浦里、西塩田はその中間帯を形成している。そうしたなかで、豊里では野菜、西塩田で花きが新たな活路として選択さ

第6図 問：今後、農協にはどういう点に重点をおいてほしいですか。



第7図 問：これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか



れそうである。厳しい減反指導の中で、稲作以外の何に依存すべきなのか、いま農家はその岐路にたたされているといえそうだ。それでも敢て稲作と答える中・東塩田、室賀の農家には、他に選ぶべき農作物が見あたらない困惑がそこにひそんでいるのかもしれない。

そうした困惑は、「これからの農業にはどういう方策が望まれるか」という最後の問に対してもあらわれていたように思える。つまり答える項目が多岐にわたり、とくにこれを特定できない傾向がうかがえたからである（第8図）。全体では、「水稻作農家の保護」をうったえるのが比較的多く、ついで「特産物をつくりだし売りこむ」がつづいた。さらに「政府の農業政策の転換」をもとめる声も多い。また「果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす」とならんで「兼業農家のための工場誘致」を希望する農家が多いことに注目される。兼業農家の拡大、定着は、それを維持すべき労働市場が、近距離圏内に形成されることが不可欠となる。工場誘致がその重要な一環をなすわけである。

いずれにせよ、農家が望む方策はさまざまな項

第8図 問：これからの農業にはどのような方策が望まれますか

合 計	果樹・畜産 の増進 6.2	特産物 14.8	果樹・工 芸作物 の増進 11.4	水稻作農 家の保護 15.1	兼業農家 の拡大 11.4	兼業農家 の定着 11.0	政府の農 業政策の 転換 12.5	その他 11.6	未 答 6.0
神 科	4.8	12.5	22.6	6.5	8.9	16.7	11.9	11.2	4.8
豊 里	8.2	12.8	10.5	17.4	13.9	8.2	16.3	10.4	2.3
室 賀	3.1	15.6	8.3	14.6	14.6	13.5	13.5	11.5	5.3
浦 里	16	7.1	15.5	12.8	13.1	13.1	16.7	10.7	2.4
中塩田	11.5	17.7	3.5	21.2	8.9	6.2	11.5	10.6	8.9
西塩田	4.8	21.1	13.5	13.5	5.8	10.6	9.6	9.6	11.5
東塩田	7.2	15.8	2.9	18.7	15.8	7.2	10.8	15.8	5.8

目に分散している。農家自身がみずからの展望を確定しきれていない姿がそこにある。もちろん地域別にみた場合、微妙にその要望する力点は異っている。たとえば、神科では果樹、特産物に比重がおかれている。中塩田では水稻作農家の保護をもとめる声が多い。東塩田で工場誘致が多いのは、同地区内での工業団地造成と無縁ではあるまい。このように地域的特色が個々にみられるものの全体的には現状を追認し、それを保持し、保障されることを望む声が主流をなしている。現在の農家経営の形態を大きく変えることは、あまり望まれていないのである。

## (5) 小 括

以上、上田市という人口11万余の地方都市近郊農業の現状とその構造的特質を検討した。その結果、(1)神科、豊里という国道18号線ぞいに位置し、旧上田市街地に近いところでは、果樹など商品作物の栽培を中心に積極的営農がみられるものの、一方で宅地化がすすみ、離農または、規模縮少がみられる。(2)室賀、浦里、西塩田は伝統的農村地帯を構成しているが、若年労働力の流出が今後にあたえる影響という点で一挙の離農現象の出現が危惧される。(3)中塩田は神科同様、無秩序な宅地化、商業化がすすみ、零細小規模農家の解体を一層促進する傾向にある。(4)その点、東塩田は積極的営農がより進展している地域ではあるが、円高による影響が工芸作物である朝鮮人参の作付に、深刻さをあたえてきた。専業自立の維持が困難さを増すだろう。

このように上田市域の各地区の農業がかかえる問題は多様で、かつ容易に現状の課題を解決する状況にはない。まして「中核農家の育成」は、強力な行政指導があればともかく、現実にはむずかしい。兼業農家の経済基盤が、地域産業で支えられている間とはともかく、確実に迫りくる高令化問題に対応する新たな政策または構造的変化がないかぎり、農業の相対的地盤沈下は避けられそうもない。地方都市近郊農業は、1990年代に向けていま新たな対応に迫られているのである。

## 〈資料 農家意識調査票集計結果〉

### 地域農業の特色と活性化に関する意識調査

#### 調査協力へのおねがい

このたび、長野大学の上田市（代表 菅沼正久）では、「地方都市の存立構造と展望」というテーマで上田市の総合研究にとりくむことになりました。幸いにも昭和 61、62 年度文部省科学研究費の助成をうけることにもなり、より有意義な研究成果をあげたいものと考えております。

つきましては、その総合研究の一環として、農家の意識調査をおこなうことになりました。それは、地域農業の特性を把握するとともに、今後の上田市地域農業の発展を考える上での基礎資料をつくるためです。

春を迎えて、まことに多忙な時期にご記入のおねがいをすることになり、恐縮のきわみでございます。が、なにとぞ主旨ご理解のうえ、調査にご協力の程よろしくお願いします。

なお、この調査の結果は、コンピューターで処理され、学術研究資料としてのみ使用し、個人のお名前がでて、ご迷惑をおかけすることは一切ありません。

また、この調査に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

上田市下之郷 長野大学 野 原 建 一 研究室  
電話 38-2350（代表） 内線（38）

この調査票は、記入しやすいように、すべて○印をつけるようになっております。あてはまる番号を○でかこってください。

なお、この調査票は、集計・整理のつごうで、まことに勝手に恐縮ですが、5月30日（土）までに、同封の封筒に入れて送り返して下さるようお願いします。

昭和62年4月20日

長野大学 産業社会学部  
上田市研究会  
（代表 菅沼正久）

第16表 調査票回収状況

地区名	調査戸数	回収数	回収率
神 科	150	100	67 %
豊 里	100	57	57
室 賀	100	56	56
浦 里	100	53	53
中 塩 田	100	89	89
西 塩 田	100	76	76
東 塩 田	100	92	92
計	750	523	70

#### 〔合 計〕

（ ）内%

- I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。
- (1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。
- ① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。
1. 専業 115 (21.9)
  2. 第1種兼業 179 (34.2)
  3. 第2種兼業 150 (28.6)
  4. その他 10 (1.9)
  5. N. A. 70 (13.4)
- ② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。
1. 0.5 ha以下 102 (19.5)
  2. 0.5～1.0 ha 209 (39.9)
  3. 1.0～2.0 ha 116 (22.1)
  4. 2.0 ha以上 30 (5.7)
  5. N. A. 67 (12.8)
- ③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。（農業収入の中で1番多いもの）
1. 稲 304 (55.3)
  2. 麦・豆・芋 5 (0.9)
  3. 果樹類 125 (22.7)
  4. 工芸作物 3 (0.5)
  5. 畜産類 11 (2.0)
  6. 野菜 18 (3.3)
  7. 花き 14 (2.6)
  8. その他 15 (2.7)
  9. N. A. 55 (10.0)
- (2) 今後の農業経営についておたずねします。
- ① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。
1. はい 32 (6.1)
  2. いいえ 339 (64.7)
  3. へらしたい 51 (9.7)
  4. わからない 46 (8.8)
  5. その他 4 (0.8)
  6. N. A. 52 (9.9)
- ② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。
1. 稲 259 (45.1)
  2. 麦・豆・芋 11 (1.9)
  3. 果樹類 152 (26.5)
  4. 工芸作物 6 (1.0)
  5. 畜産物 7 (1.2)
  6. 野菜 27 (4.7)
  7. 花き 34 (5.9)
  8. その他 20 (3.5)
  9. N. A. 58 (10.2)
- (3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについてうかがいます。
- ① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。
1. はい 88 (5.7)
  2. いいえ 363 (69.3)
  3. その他 17 (3.2)
  4. N. A. 56 (10.7)

② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。

1. はい 30 (5.7) 2. いいえ 343 (65.5)  
3. へらしたい 7 (1.3) 4. その他 15 (2.9)  
5. N. A. 129 (24.6)

③ あなたの家では水稻作などを請負ったことがありますか。

1. はい 67 (12.8) 2. いいえ 390 (74.4)  
3. その他 3 (0.6) 4. N. A. 64 (12.2)

④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。

1. はい 18 (3.4) 2. いいえ 343 (65.5)  
3. へらしたい 8 (1.5) 4. その他 8 (1.5)  
4. N. A. 147 (28.1)

(4) 減反についてうかがいます。

① あなたの家では減反により収入面でどういう影響をうけましたか。

1. 大幅な減収 202 (38.5)  
2. わずかな減収 176 (33.6)  
3. ほとんど影響なし 57 (10.9)  
4. わずかに増収 10 (1.9)  
5. 大幅な増収 4 (0.8)  
6. その他 10 (1.9) 7. N. A. 65 (12.4)

② 農作業にはどういった影響をあたえましたか。

1. 新しい農作物転換の機会をえた 33 (6.3)  
2. 農業のあり方を考えさせられた 250 (47.5)  
3. 失望してやる気を失わせた 94 (17.9)  
4. 影響なし 66 (12.5)  
5. その他 10 (1.9) 6. N. A. 73 (13.9)

Ⅱ つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。

(1) 近年、中核（専業）農家の育成が叫ばれていますが、それについてうかがいます。

① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。

1. 1～2 ha 60 (11.5) 2. 2～3 ha 162 (30.9)  
3. 3 ha以上 197 (37.6) 4. その他 19 (3.6)  
5. N. A. 86 (16.4)

② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。

1. はい 104 (19.8) 2. いいえ 203 (38.7)  
3. わからない 141 (26.9)  
4. その他 5 (1.0) 5. N. A. 71 (13.6)

(2) 農業以外の収入の途についておたずねします。

① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。

1. 各種製造工場 286 (52.1)  
2. 卸・小売店 5 (0.9) 3. サービス業 34 (6.2)  
4. 飲食業 4 (0.7) 5. 観光 85 (15.5)  
6. その他 32 (5.8) 7. N. A. 103 (18.8)

② 農業以外の収入に存在する割合が今後ふえていくと思いますか。

1. はい 377 (71.9) 2. いいえ 22 (4.2)  
3. わからない 46 (8.8)  
4. そうならないよう努力する 16 (3.1)  
5. その他 5 (1.0) 6. N. A. 58 (11.0)

(3) 農業後継者についておたずねします。

① あなたの家の後継者はどなたですか。

1. 息子 332 (63.4) 2. 娘 45 (8.6)  
3. いない 63 (12.0) 4. さがしている 8 (1.5)  
5. その他 23 (4.4) 6. N. A. 53 (10.1)

② 農業後継者について、今後どうすればよいでしょう。

1. 各自が努力 255 (46.6)  
2. 農家組合で努力 10 (1.8)  
3. 農協に頼む 44 (8.0)  
4. 上田市に依頼 7 (1.3)  
5. 政府が考えるべき 99 (18.1)  
6. どうすることもできない 55 (10.1)  
7. その他 8 (1.5) 8. N. A. 69 (12.6)

(4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。

① 現在の農協の活動について満足していますか。

1. 満足 78 (14.9) 2. やや不満 213 (40.6)  
3. 不満 87 (16.6) 4. 期待していない 47 (9.0)  
5. その他 53 (10.1) 6. N. A. 46 (8.8)

② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。

1. 営農指導が不十分 132 (17.4)  
2. 集荷・流通が不合理 84 (11.1)  
3. 景気の動きに対応が遅い 118 (15.5)  
4. 販売価格が他業者に比べ高い 119 (15.7)  
5. 販売営業に力をいれすぎる 58 (7.6)  
6. 共済に力をいれすぎる 93 (12.2)  
7. 職員の対応が不親切 37 (4.9)  
8. その他 11 (1.4) 9. N. A. 108 (14.2)

③ 今後、農協にはどのような点に重点をおいてほしいですか。

1. 営農指導の強化 183 (24.5)  
2. 農作物集荷の合理化 61 (8.2)  
3. 農用機械のアフターサービス 54 (7.2)  
4. 農薬・肥料等価格の値下げ 187 (25.1)  
5. 畜産の強化 5 (0.7)  
6. 付加価値の高い農作物の指導 134 (18.0)  
7. 請負耕作の斡旋 35 (4.7)  
8. その他 23 (3.1) 9. N. A. 64 (8.5)

(5) 最後に、今後の農業についておたずねします。

① これからの農業にはとういう方策が望まれますか。

1. 大規模農家の育成 49 (6.2)  
2. 特産物をつくりだし、売りこむ 117 (14.8)  
3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 90 (11.4)  
4. 水稻作農家の保護 119 (15.1)  
5. 兼業農家のための工場誘致 90 (11.4)  
6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 36 (4.6)  
7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 87 (11.0)  
8. 上田市の農政の積極化 47 (5.9)  
9. 政府の農業政策の転換 99 (12.5)  
10. その他 9 (1.1) 11. N. A. 47 (6.0)

② あなたの家では今後どう農業をつづけていく予定ですか。

1. 積極的に拡張し、新しい農産物にも挑戦したい 27 (5.1)  
2. すこし規模を広げたい 23 (4.4)

3. 現状維持 334 (63.4)
4. すこし経営規模を縮少したい 51 (9.7)
5. できればやめたい 30 (5.7)
6. 近い将来農業をやめる
7. その他 9 (1.7) 8. N. A. 38 (7.2)

## 〔神科地区〕

( ) %

I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。

(1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。

- ① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。
  1. 専業 42 (41.6) 2. 第1種兼業 34 (33.7)
  3. 第2種兼業 16 (15.8) 4. その他 1 (1.0)
  5. N. A. 8 (7.9)
- ② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。
  1. 0.5 ha以下 8 (7.9)
  2. 0.5～1.0 ha 54 (53.5)
  3. 1.0～2.0 ha 28 (27.7)
  4. 2.0 ha以上 3 (3.0) 5. N. A. 8 (7.9)
- ③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)
  1. 稲 17 (16.7) 2. 麦・豆・芋 ( )
  3. 果樹類 71 (69.6) 4. 工芸作物 ( )
  5. 畜産類 1 (1.0) 6. 野菜 ( )
  7. 花き 6 (5.9) 8. その他 ( )
  9. N. A. 7 (6.8)

(2) 今後の農家経営についておたずねします。

- ① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。
  1. はい 6 (5.9) 2. いいえ 69 (68.4)
  3. へらしたい 11 (10.9) 4. わからない 9 (8.9)
  5. その他 ( ) 6. N. A. 6 (5.9)
- ② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。
  1. 稲 19 (17.0) 2. 麦・豆・芋 ( )
  3. 果樹類 75 (67.0) 4. 工芸作物 ( )
  5. 畜産類 ( ) 6. 野菜 1 (0.9)
  7. 花き 8 (7.1) 8. その他 2 (1.8)
  9. N. A. 7 (6.2)

(3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについてうかがいます。

- ① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。
  1. はい 5 (5.0) 2. いいえ 81 (80.2)
  3. その他 8 (7.9) 4. N. A. 7 (6.9)
- ② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。
  1. はい 5 (4.9) 2. いいえ 58 (57.4)
  3. へらしたい 3 (3.0)
  4. その他 3 (3.0) 5. N. A. 32 (31.7)
- ③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。
  1. はい 11 (10.9) 2. いいえ 77 (76.2)
  3. その他 2 (2.0) 4. N. A. 11 (10.9)
- ④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定で

すか。

1. はい 2 (2.0) 2. いいえ 61 (60.4)
3. へらしたい 2 (2.0)
4. その他 4 (3.9) 5. N. A. 32 (31.7)

(4) 減反についてうかがいます。

- ① あなたの家では減反により収入面でどういふ影響をうけましたか。
  1. 大幅な減収 30 (29.7)
  2. わずかな減収 27 (26.7)
  3. ほとんど影響なし 21 (20.8)
  4. わずかに増収 4 (4.0)
  5. 大幅な増収 2 (2.0)
  6. その他 3 (3.0) 7. N. A. 14 (13.8)
- ② 農作業にはどういふ影響を与えましたか。
  1. 新しい農作物転換の機会を得た 12 (11.9)
  2. 農業のあり方を考えさせられた 50 (49.5)
  3. 失望してやる気が失われた 8 (7.9)
  4. 影響なし 14 (13.9)
  5. その他 4 (3.9) 6. N. A. 13 (12.9)

II つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。

(1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが、それについてうかがいます。

- ① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。
  1. 1～2 ha 21 (20.8) 2. 2～3 ha 39 (38.6)
  3. 3 ha以上 26 (25.7) 4. その他 5 (5.0)
  5. N. A. 10 (9.9)
- ② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。
  1. はい 17 (16.8) 2. いいえ 51 (50.5)
  3. わからない 19 (18.8)
  4. その他 3 (3.0) 5. N. A. 11 (10.9)

(2) 農業以外の収入の途についておたずねします。

- ① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。
  1. 各種製造工場 54 (51.9)
  2. 卸・小売店 2 (1.9) 3. サービス業 5 (4.8)
  4. 飲食業 ( ) 5. 観光 12 (11.6)
  6. その他 10 (9.6) 7. N. A. 21 (20.2)
- ② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。
  1. はい 71 (70.3) 2. いいえ 7 (6.9)
  3. わからない 5 (5.0)
  4. そうならないよう努力する 6 (5.9)
  5. その他 2 (2.0) 6. N. A. 10 (9.9)

(3) 農業後継者についておたずねします。

- ① あなたの家の後継者はどなたですか。
  1. 息子 66 (65.3) 2. 娘 7 (6.9)
  3. いなし 15 (14.8) 4. さがしている 3 (3.0)
  5. その他 5 (5.0) 6. N. A. 5 (5.0)
- ② 農業後継者について、今後どうすればよいでしょうか。
  1. 各自が努力 52 (50.0)
  2. 農家組合で努力 2 (1.9)
  3. 農協に頼む 7 (6.7)
  4. 上田市に依頼 1 (1.0)



5. 政府が考えるべき 18 (17.3)
  6. どうすることもできない 10 (9.6)
  7. その他 2 (1.9) 8. N. A. 12 (11.6)
- (4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。
- ① 現在の農協の活動について満足していますか。
    1. 満足 17 (16.8) 2. やや不満 50 (49.5)
    3. 不満 11 (10.9) 4. 期待していない 4 (4.0)
    5. その他 14 (13.9) 6. N. A. 5 (4.9)
  - ② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。
    1. 営農指導が不十分 22 (15.3)
    2. 集荷・流通が不合理 12 (8.3)
    3. 景気の動きに対応が遅い 26 (18.1)
    4. 販売価格が他業者にくらべ高い 29 (20.1)
    5. 販売営業に力をいれすぎる 12 (8.3)
    6. 共済に力をいれすぎる 11 (7.6)
    7. 職員の対応が不親切 9 (6.3)
    8. その他 4 (2.8) 9. N. A. 19 (13.2)
  - ③ 今後、農協にはどういう点に重点をおいてほしいですか。
    1. 営農指導の強化 36 (23.5)
    2. 農作物集荷の合理化 16 (10.5)
    3. 農用機械のアフターサービス 5 (3.3)
    4. 農薬・肥料等価格の値下げ 45 (29.4)
    5. 畜産の強化 ( )
    6. 付加価値の高い農作物の指導 27 (17.6)
    7. 請負耕作の斡旋 4 (2.6)
    8. その他 11 (7.2) 9. N. A. 9 (5.9)
- (5) 最後に、今後の農業についておたずねします。
- ① これからの農業にはどういう方策が望まれますか。
    1. 大規模農家の育成 8 (4.8)
    2. 特産物をつくりだし、売りこむ 21 (12.5)
    3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 38 (22.6)
    4. 水稲作農家の保護 11 (6.5)
    5. 兼業農家のための工場誘致 15 (8.9)
    6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 7 (4.2)
    7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 28 (16.7)
    8. 上田市の農政の積極化 10 (5.9)
    9. 政府の農業政策の転換 20 (11.9)
    10. その他 2 (1.2) 11. N. A. 8 (4.8)
  - ② あなたの家では今後どう農業をつづけていく予定ですか。
    1. 積極的に拡張し、新しい農産にも挑戦したい 6 (5.8)
    2. すこし規模を広げたい 6 (5.8)
    3. 現状維持 63 (61.2)
    4. すこし経営規模を縮小したい 13 (12.6)
    5. できればやめたい 3 (2.6)
    6. 近い将来農業をやめる 5 (4.9)
    7. その他 3 (2.9) 8. N. A. 4 (3.9)

## 【豊里地区】

( ) %

I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。

(1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。

- ① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。
  1. 専業 17 (29.8) 2. 第1種兼業 22 (38.6)
  3. 第2種兼業 13 (22.8) 4. その他 ( )
  5. N. A. 5 (8.8)
- ② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。
  1. 0.5 ha以下 6 (10.5)
  2. 0.5～1.0 ha 26 (45.6)
  3. 1.0～2.0 ha 18 (31.6)
  4. 2.0 ha以上 1 (1.8)
  5. N. A. 6 (10.5)
- ③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)
  1. 稲 28 (46.7) 2. 麦・豆・芋 ( )
  3. 果樹類 15 (25.0) 4. 工芸作物 ( )
  5. 畜産類 1 (1.7) 6. 野菜 10 (16.7)
  7. 花き ( ) 8. その他 1 (1.7)
  9. N. A. 5 (8.2)

(2) 今後の農家経営についておたずねします。

- ① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。
  1. はい 6 (10.5) 2. いいえ 38 (66.7)
  3. へらしたい 6 (10.5) 4. わからない 2 (3.5)
  5. その他 ( ) 6. N. A. 5 (8.8)
- ② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。
  1. 稲 27 (41.5) 2. 麦・豆・芋 ( )
  3. 果樹類 19 (29.2) 4. 工芸作物 ( )
  5. 畜産類 ( ) 6. 野菜 13 (20.0)
  7. 花き 1 (1.5) 8. その他 ( )
  9. N. A. 5 (7.8)

(3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについてうかがいます。

- ① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。
  1. はい 4 (7.0) 2. いいえ 46 (80.7)
  3. その他 2 (3.5) 4. N. A. 5 (8.8)
- ② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。
  1. はい 2 (3.5) 2. いいえ 43 (75.4)
  3. へらしたい ( ) 4. その他 ( )
  5. N. A. 12 (21.1)
- ③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。
  1. はい 7 (12.3) 2. いいえ 43 (75.4)
  3. その他 ( ) 4. N. A. 7 (12.3)
- ④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。
  1. はい 2 (3.5) 2. いいえ 43 (75.4)
  3. へらしたい ( ) 4. その他 1 (1.8)
  5. N. A. 11 (19.3)

(4) 減反についてうかがいます。

- ① あなたの家では減反により収入面でどうい

影響をうけましたか。

1. 大幅な減収 22 (38.6)
2. わずかな減収 18 (31.6)
3. ほとんど影響なし 8 (14.0)
4. かずかに増収 1 (1.8)
5. 大幅な増収 1 (1.8)

6. その他 ( ) 7. N. A. 7 (12.2)

② 農作業にはどういう影響をあたえましたか。

1. 新しい農作物転換の機会をえた 6 (10.5)
2. 農業のあり方を考えさせられた 27 (47.4)
3. 失望してやる気を失わせた 12 (21.1)
4. 影響なし 6 (10.5)
5. その他 ( )
6. N. A. 6 (10.5)

Ⅱ つぎに地域農業の発展にわかわることがらについておたずねします。

(1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが、それについてうかがいます。

① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。

1. 1～2 ha 11 (19.3)
2. 2～3 ha 19 (33.3)
3. 3 ha以上 18 (31.6)
4. その他 ( )
5. N. A. 9 (15.8)

② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。

1. はい 17 (29.8)
2. いいえ 19 (33.3)
3. わからない 14 (24.6)
4. その他 1 (1.8)
5. N. A. 6 (10.5)

(2) 農業以外の収入の途についておたずねします。

① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。

1. 各種製造工場 30 (51.7)
2. 卸・小売店 ( )
3. サービス業 5 (8.6)
4. 飲食業 1 (1.7)
5. 観光 11 (19.0)
6. その他 3 (5.2)
7. N. A. 8 (13.8)

② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。

1. はい 40 (70.2)
2. いいえ 2 (3.5)
3. わからない 7 (12.3)
4. そうならないよう努力する 2 (3.5)
6. その他 ( )
7. N. A. 6 (10.5)

(3) 農業後継者についておたずねします。

① あなたの家の後継者はどなたですか。

1. 息子 38 (66.6)
2. 娘 7 (12.3)
3. いない 3 (5.3)
4. さがしている ( )
5. その他 3 (5.3)
6. N. A. 6 (10.5)

② 農業後継者について、今後どうすればいいでしょうか。

1. 各自が努力 33 (52.3)
2. 農家組合で努力 ( )
3. 農協に頼む 3 (4.8)
4. 上田市に依頼 1 (1.6)
5. 政府が考えるべき 17 (27.0)
6. することもできない 3 (4.8)
7. その他 ( )
8. N. A. 6 (9.5)

(4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。

① 現在の農協の活動について満足していますか。

1. 満足 10 (17.5)
2. やや不満 26 (45.7)
3. 不満 6 (10.5)
4. 期待していない 7 (12.3)
5. その他 6 (10.5)
6. N. A. 2 (3.5)

② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。

1. 営農指導が不十分 21 (22.9)
2. 集荷・流通が不合理 11 (11.9)
3. 景気の動きに対応が遅い 15 (16.3)
4. 販売価格が他業者に比べて高い 15 (16.3)
5. 販売営業に力をいれすぎる 4 (4.3)
6. 共済に力をいれすぎる 18 (19.6)
7. 職員の対応が不親切 2 (2.2)
8. その他 1 (1.1)
9. N. A. 5 (5.4)

③ 今後、農協にはどういう点に重点をおいてほしいですか。

1. 営農指導の強化 25 (29.4)
2. 農作物集荷の合理化 4 (4.7)
3. 農機具のアフターサービス 9 (10.6)
4. 農薬・肥料等価格の値下げ 17 (20.0)
5. 畜産の強化 ( )
6. 付加価値の高い農作物の指導 22 (25.9)
7. 請負耕作の斡旋 4 (4.7)
8. その他 1 (1.2)
9. N. A. 3 (3.5)

(5) 最後に、今後の農家についておたずねします。

① これからの農業にはどういう方策が望まれますか。

1. 大規模農家の育成 7 (8.2)
2. 特産物をつくりだし、売りこむ 11 (12.8)
3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 9 (10.5)
4. 水稻作農家の保護 15 (17.4)
5. 兼業農家のための工場誘致 12 (13.9)
6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 4 (4.6)
7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 7 (8.2)
8. 上田市の農政の積極化 5 (5.8)
9. 政府の農業政策の転換 14 (16.3)
10. その他 ( )
11. N. A. 2 (2.3)

② あなたの家では今後どう農家をつづけていく予定ですか。

1. 積極的に拡張し、新しい農産物にも挑戦したい 5 (8.8)
2. すこし規模を広げたい 4 (7.0)
3. 現状維持 35 (61.4)
4. すこし経営規模を縮小したい 5 (8.8)
5. できればやめたい 2 (3.5)
6. 近い将来農業をやめる 3 (5.3)
7. その他 2 (3.5)
8. N. A. 1 (1.7)

## 【室賀地区】

( ) %

I. それでは最初に農家経営の現状についてうかがいます。

(1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。

① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。

1. 専業 11 (19.6)
2. 第1種兼業 23 (41.1)

3. 第2種兼業 13 (23. 2)  
 4. その他 ( ) 5. N. A. 9 (16. 1)
- ② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。  
 1. 0. 5 ha以下 17 (30. 3)  
 2. 0. 5～1. 0 ha 19 (33. 9)  
 3. 1. 0～2. 0 ha 8 (14. 3)  
 4. 2. 0 ha以上 3 (5. 4) 5. N. A. 9 (16. 1)
- ③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)  
 1. 稲 38 (67. 8) 2. 麦・豆・芋 ( )  
 3. 果樹類 4 (7. 1) 4. 工芸作物 ( )  
 5. 畜産類 3 (5. 4) 6. 野菜 1 (1. 8)  
 7. 花き 1 (1. 8) 8. その他 3 (3. 6)  
 9. N. A. 7 (12. 5)
- (2) 今後の農家経営についておたずねします。  
 ① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。  
 1. はい 2 (3. 6) 2. いいえ 34 (60. 7)  
 3. へらしたい 10 (17. 8)  
 4. わからない 3 (5. 4)  
 5. その他 ( ) 6. N. A. 7 (12. 5)  
 ② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。  
 1. 稲 33 (54. 1) 2. 麦・豆・芋 1 (1. 6)  
 3. 果樹類 3 (4. 9) 4. 工芸作物 1 (1. 6)  
 5. 畜産類 3 (4. 9) 6. 野菜 4 (6. 6)  
 7. 花き 4 (6. 6) 8. その他 5 (8. 2)  
 9. N. A. 7 (11. 5)
- (3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいます。それについてうかがいます。  
 ① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。  
 1. はい 6 (10. 7) 2. いいえ 40 (71. 4)  
 3. その他 1 (1. 8) 4. N. A. 9 (16. 1)  
 ② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。  
 1. はい 3 (5. 3) 2. いいえ 36 (64. 3)  
 3. へらしたい ( ) 4. その他 1 (1. 8)  
 5. N. A. 16 (28. 6)  
 ③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。  
 1. はい 3 (5. 4) 2. いいえ 45 (80. 3)  
 3. その他 ( ) 4. N. A. 8 (14. 3)  
 ④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。  
 1. はい 1 (1. 8) 2. いいえ 35 (62. 5)  
 3. へらしたい 1 (1. 8) 4. その他 ( )  
 5. N. A. 19 (33. 9)
- (4) 減反についてうかがいます。  
 ① あなたの家では減反により収入面でどのような影響を受けましたか。  
 1. 大幅な減収 15 (26. 8)  
 2. わずかな減収 27 (48. 2)  
 3. ほとんど影響なし 4 (7. 1)  
 4. わずかに増収 1 (1. 8)  
 5. 大幅な増収 ( )  
 6. その他 1 (1. 8) 7. N. A. 8 (14. 3)  
 ② 農作業にはどのような影響をあたえましたか。  
 1. 新しい農作物転換の機会をえた 2 (3. 6)  
 2. 農業のあり方を考えさせられた 23 (41. 1)  
 3. 失望してやる気を失わせた 13 (23. 2)  
 4. 影響なし 7 (12. 5) 5. その他 ( )  
 6. N. A. 11 (19. 6)
- Ⅱ つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。  
 (1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが、それについてうかがいます。  
 ① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。  
 1. 1～2 ha 3 (5. 4) 2. 2～3 ha 17 (30. 3)  
 3. 3 ha以上 20 (35. 7) 4. その他 1 (1. 8)  
 5. N. A. 15 (26. 8)  
 ② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。  
 1. はい 5 (8. 9) 2. いいえ 31 (55. 4)  
 3. わからない 11 (19. 6)  
 4. その他 ( ) 5. N. A. 9 (16. 1)
- (2) 農業以外の収入の途についておたずねします。  
 ① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。  
 1. 各種製造工場 37 (61. 6)  
 2. 卸・小売店 ( ) 3. サービス業 2 (3. 3)  
 4. 飲食業 ( ) 5. 観光 7 (11. 7)  
 6. その他 1 (1. 7) 7. N. A. 13 (21. 7)  
 ② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。  
 1. はい 43 (76. 8) 2. いいえ ( )  
 3. わからない 3 (5. 4)  
 4. そうならないよう努力する 2 (3. 6)  
 5. その他 2 (3. 6) 6. N. A. 6 (10. 6)
- (3) 農業後継者についておたずねします。  
 ① あなたの家の後継者はどなたですか。  
 1. 息子 41 (73. 2) 2. 娘 3 (5. 4)  
 3. いない 4 (7. 1) 4. さがしている 1 (1. 8)  
 5. その他 ( ) 6. N. A. 7 (12. 5)  
 ② 農業後継者について、今後どうすればよいでしょうか。  
 1. 各自が努力 24 (39. 4)  
 2. 農家組合で努力 1 (1. 6)  
 3. 農協に頼む 7 (11. 5) 4. 上田市に依頼 ( )  
 5. 政府が考えるべき 16 (26. 2)  
 6. どうすることもできない 4 (6. 6)  
 7. その他 1 (1. 6) 8. N. A. 8 (13. 1)
- (4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。  
 ① 現在の農協の活動について満足していますか。  
 1. 満足 10 (17. 8) 2. やや不満 20 (35. 7)  
 3. 不満 14 (25. 0) 4. 期待していない 5 (8. 9)  
 5. その他 4 (7. 2) 6. N. A. 3 (5. 4)  
 ② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。  
 1. 営農指導が不十分 24 (29. 3)  
 2. 集荷・流通が不合理 10 (12. 2)  
 3. 景気の動きに対応が遅い 13 (15. 9)  
 4. 購買価格が他業者に比べて高い 7 (8. 5)

5. 販売営業に力をいれすぎる 3 (3.7)
6. 共済に力をいれすぎる 7 (8.5)
7. 職員の対応が不親切 5 (6.1)
8. その他 1 (1.2) 9. N. A. 12 (14.6)
- ③ 今後、農協にはどのような点に重点をおいてほしいですか。
  1. 営農指導の強化 27 (32.1)
  2. 農作物集荷の合理化 3 (3.6)
  3. 農用機械のアフターサービス 8 (9.5)
  4. 農薬・肥料等価格の値下げ 18 (21.4)
  5. 畜産の強化 2 (2.4)
  6. 付加価値の高い農作物の指導 12 (14.3)
  7. 請負耕作の斡旋 5 (6.0)
  8. その他 2 (2.4) 9. N. A. 7 (8.3)
- (5) 最後に、今後の農業についておたずねします。
  - ① これからの農業にはどのような方策が望まれますか。
    1. 大規模農家の育成 3 (3.1)
    2. 特産物をつくりだし、売りこむ 15 (15.6)
    3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 8 (8.3)
    4. 水稲作農家の保護 14 (14.6)
    5. 兼業農家のための工場誘致 14 (14.6)
    6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 2 (2.1)
    7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 13 (13.5)
    8. 上田市の農政の積極化 9 (9.4)
    9. 政府の農業政策の転換 13 (13.5)
    10. その他 ( ) 11. N. A. 5 (5.3)
  - ② あなたの家では今後どう農業をつづけていく予定ですか。
    1. 積極的に拡張し、新しい農作物にも挑戦したい ( )
    2. すこし規模を広げたい 1 (1.8)
    3. 現状維持 38 (67.8)
    4. すこし経営規模を縮小したい 7 (12.5)
    5. できればやめたい 6 (10.7)
    6. 近い将来農業をやめる 2 (3.6)
    7. その他 ( ) 8. N. A. 2 (3.6)

## 〔浦里地区〕

- ( ) %
- I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。
- (1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。
- ① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。
    1. 専業 8 (15.1) 2. 第1種兼業 21 (39.6)
    3. 第2種兼業 15 (28.3) 4. その他 1 (1.9)
    5. N. A. 8 (15.1)
  - ② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。
    1. 0.5 ha以下 10 (18.9)
    2. 0.5～1.0 ha 21 (39.6)
    3. 1.0～2.0 ha 9 (17.0)
    4. 2.0 ha以上 3 (5.6) 5. N. A. 10 (18.9)
  - ③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)

1. 稲 30 (51.7) 2. 麦・豆・芋 ( )
3. 果樹類 12 (20.7) 4. 工芸作物 ( )
5. 畜産類 2 (3.4) 6. 野菜 1 (1.7)
7. 花き 1 (1.7) 8. その他 2 (3.4)
9. N. A. 10 (17.4)
- (2) 今後の農家経営についておたずねします。
  - ① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。
    1. はい 3 (5.7) 2. いいえ 33 (62.2)
    3. へらしたい 6 (11.3) 4. わからない 3 (5.7)
    5. その他 ( ) 6. N. A. 8 (15.1)
  - ② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。
    1. 稲 23 (39.0) 2. 麦・豆・芋 ( )
    3. 果樹類 18 (30.5) 4. 工芸作物 ( )
    5. 畜産類 2 (3.4) 6. 野菜 1 (1.7)
    7. 花き 2 (3.4) 8. その他 4 (6.8)
    9. N. A. 9 (15.2)
  - (3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについてうかがいます。
    - ① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。
      1. はい 7 (13.2) 2. いいえ 36 (67.9)
      3. その他 2 (3.8) 4. N. A. 8 (15.1)
    - ② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。
      1. はい 2 (3.8) 2. いいえ 34 (64.1)
      3. へらしたい 1 (1.9) 4. その他 ( )
      5. N. A. 16 (30.2)
    - ③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。
      1. はい 4 (7.5) 2. いいえ 41 (77.4)
      3. その他 ( ) 4. N. A. 8 (15.1)
    - ④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。
      1. はい 1 (1.9) 2. いいえ 36 (67.9)
      3. へらしたい ( ) 4. その他 ( )
      5. N. A. 16 (30.2)
  - (4) 減反についてうかがいます。
    - ① あなたの家では減反により収入面でどのような影響を受けましたか。
      1. 大幅な減収 23 (43.4)
      2. わずかな減収 14 (26.4)
      3. ほとんど影響なし 5 (9.4)
      4. わずかに増収 ( ) 5. 大幅な増収 1 (1.9)
      6. その他 1 (1.9) 7. N. A. 9 (19.0)
    - ② 農作業にはどのような影響をあたえましたか。
      1. 新しい農作物転換の機会をえた 3 (5.7)
      2. 農業のあり方を考えさせられた 20 (37.7)
      3. 失望してやる気を失わせた 13 (24.5)
      4. 影響なし 8 (15.1) 5. その他 ( )
      6. N. A. 9 (17.0)
  - II つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。
    - (1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが、それについてうかがいます。
      - ① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農

家と考えますか。

1. 1～2 ha 2 (3.8) 2. 2～3 ha 23 (43.4)
3. 3 ha以上 16 (30.2) 4. その他 1 (1.9)
5. N. A. 11 (20.7)

(2) あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。

1. はい 8 (15.1) 2. いいえ 21 (39.6)
3. わからない 14 (26.4) 4. その他 ( )
5. N. A. 10 (18.9)

(2) 農業以外の収入の途についておたずねします。

① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。

1. 各種製造工場 29 (51.8)
2. 卸・小売店 1 (1.8) 3. サービス業 2 (3.6)
4. 飲食業 ( ) 5. 観光 8 (14.3)
6. その他 3 (5.3) 7. N. A. 13 (23.2)

② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。

1. はい 34 (64.1) 2. いいえ 2 (3.8)
3. わからない 5 (9.4)
4. そうならないよう努力する 2 (3.8)
5. その他 1 (1.9) 6. N. A. 9 (17.0)

(3) 農業後継者についておたずねします。

① あなたの家の後継者はどなたですか。

1. 息子 31 (58.5) 2. 娘 7 (13.2)
3. いなし 3 (5.6) 4. さがしている 2 (3.8)
5. その他 2 (3.8) 6. N. A. 8 (15.1)

② 農業後継者について、今後どうすればよいでしょうか。

1. 各自が努力 24 (45.3)
2. 農家組合で努力 2 (3.8)
3. 農協に頼む 2 (3.8) 4. 上田市に依頼 ( )
5. 政府が考えるべき 12 (22.6)
6. どうすることもできない 5 (9.4)
7. その他 ( ) 8. N. A. 8 (15.1)

(4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。

① 現在の農協の活動について満足していますか。

1. 満足 4 (7.5) 2. やや不満 25 (47.2)
3. 不満 9 (17.0) 4. 期待していない 6 (11.3)
5. その他 7 (13.2) 5. N. A. 2 (3.8)

② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。

1. 営農指導が不十分 14 (18.4)
2. 集荷・流通が不合理 11 (14.5)
3. 景気の動きに対応が遅い 12 (15.8)
4. 購買価格が他業者にくらべて高い 12 (15.8)
5. 販売営業に力をいれすぎる 7 (9.2)
6. 共済に力をいれすぎる 9 (11.8)
7. 職員の対応が不親切 3 (3.9)
8. その他 1 (1.4) 9. N. A. 7 (9.2)

③ 今後、農協にはどのような点に重点をおいてほしいですか。

1. 営農指導の強化 16 (22.5)
2. 農作物集荷の合理化 6 (8.4)
3. 農用機械のアフターサービス 5 (7.0)
4. 農薬・肥料等価格の値下げ 26 (36.6)
5. 畜産の強化 1 (1.4)

6. 付加価値の高い農作物の指導 10 (14.1)

7. 請負耕作の斡旋 4 (5.6)

8. その他 ( ) 9. N. A. 3 (4.4)

(5) 最後に、今後の農業についておたずねします。

① これからの農業にはどのような方策が望まれますか。

1. 大規模農家の育成 3 (3.6)
2. 特産物をつくりだし、売りこむ 6 (7.1)
3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 13 (15.5)
4. 水稲作農家の保護 15 (17.8)
5. 兼業農家のための工場誘致 11 (13.1)
6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 2 (2.4)
7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 11 (13.1)
8. 上田市の農政の積極化 6 (7.1)
9. 政府の農業政策の転換 14 (16.7)
10. その他 1 (1.2) 11. N. A. 2 (2.4)

② あなたの家では今後どう農業をつづけていく予定ですか。

1. 積極的に拡張し、新しい農産物にも挑戦したい 3 (5.5)
2. すこし規模を広げたい 1 (1.9)
3. 現状維持 35 (64.8)
4. すこし経営規模を縮小したい 9 (16.6)
5. できればやめたい 4 (7.4)
6. 近い将来農業をやめる 1 (1.9)
7. その他 ( ) 8. N. A. 1 (1.9)

## 〔中塩田地区〕

( ) %

I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。

(1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。

① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。

1. 専業 7 (7.9) 2. 第1種兼業 20 (22.5)
3. 第2種兼業 46 (51.7)
4. その他 5 (5.6) 5. N. A. 11 (12.3)

② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。

1. 0.5 ha以下 26 (29.3)
2. 0.5～1.0 ha 30 (33.7)
3. 1.0～2.0 ha 10 (11.2)
4. 2.0 ha以上 9 (10.1) 5. N. A. 14 (15.7)

③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)

1. 稲 75 (80.6) 2. 麦・豆・芋 ( )
3. 果樹類 5 (5.4) 4. 工芸作物 ( )
5. 畜産類 ( ) 6. 野菜 3 (3.2)
7. 花き ( ) 8. その他 1 (1.1)
9. N. A. 9 (9.7)

(2) 今後の農家経営についておたずねします。

① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。

1. はい 1 (1.1) 2. いいえ 65 (73.0)
3. へらしたい 4 (4.5) 4. わからない 9 (10.1)

5. その他 2 (2.3) 6. N. A. 8 (9.0)
- ② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。
1. 稲 63 (67.0) 2. 麦・豆・芋 4 (4.3)  
3. 果樹類 9 (9.6) 4. 工芸作物 ( )  
5. 畜産類 ( ) 6. 野菜 2 (2.1)  
7. 花き 2 (2.1) 8. その他 4 (4.3)  
9. N. A. 10 (10.6)
- (3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについていかがいます。
- ① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。
1. はい 44 (49.4) 2. いいえ 36 (40.4)  
3. その他 2 (2.3) 4. N. A. 7 (7.9)
- ② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。
1. はい 8 (9.0) 2. いいえ 59 (66.3)  
3. へらしたい 2 (2.3)  
4. その他 8 (9.0) 5. N. A. 12 (13.4)
- ③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。
1. はい 12 (13.5) 2. いいえ 67 (75.3)  
3. その他 1 (1.1) 4. N. A. 9 (10.1)
- ④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。
1. はい 2 (2.3) 2. いいえ 62 (69.6)  
3. へらしたい 1 (1.1)  
4. その他 2 (2.3) 5. N. A. 22 (24.7)
- (4) 減反についていかがいます。
- ① あなたの家では減反により収入面でどういう影響をうけましたか。
1. 大幅な減収 34 (38.2)  
2. わずかな減収 27 (30.3)  
3. ほとんど影響なし 11 (12.4)  
4. わずかに増収 3 (3.4) 5. 大幅な増収 ( )  
6. その他 3 (3.4) 7. N. A. 11 (12.3)
- ② 農作業にはどういう影響をあたえましたか。
1. 新しい農作物転換の機会をえた 3 (3.4)  
2. 農業のあり方を考えさせられた 40 (44.9)  
3. 失望してやる気を失わせた 13 (14.6)  
4. 影響なし 17 (19.1)  
5. その他 3 (3.4) 6. N. A. 13 (14.6)
- Ⅱ つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。
- (1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが、それについていかがいます。
- ① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。
1. 1～2 ha 6 (6.7) 2. 2～3 ha 12 (13.5)  
3. 3 ha以上 49 (55.1)  
4. その他 4 (4.5) 5. N. A. 18 (20.2)
- ② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。
1. はい 18 (20.2) 2. いいえ 30 (33.7)  
3. わからない 25 (28.1)  
4. その他 1 (1.1) 5. N. A. 15 (16.9)
- (2) 農業以外の収入の途についておたずねします。
- ① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。
1. 各種製造工場 46 (47.4)  
2. 卸・小売店 2 (2.1) 3. サービス業 12 (12.4)  
4. 飲食業 1 (1.0) 5. 観光 14 (14.4)  
6. その他 4 (4.1) 7. N. A. 18 (18.6)
- ② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。
1. はい 60 (67.4) 2. いいえ 5 (5.6)  
3. わからない 12 (13.5)  
4. そうならないよう努力する 2 (2.3)  
5. その他 ( ) 6. N. A. 10 (11.2)
- (3) 農業後継者についておたずねします。
- ① あなたの家の後継者はどなたですか。
1. 息子 53 (59.6) 2. 娘 2 (2.3)  
3. いない 18 (20.2) 4. さがしている 2 (2.3)  
5. その他 5 (5.6) 6. N. A. 9 (10.0)
- ② 農業後継者について、今後どうすればよいでしょうか。
1. 各自が努力 39 (43.8)  
2. 農家組合で努力 2 (2.3)  
3. 農協に頼む 10 (11.2)  
4. 上田市に依頼 2 (2.3)  
5. 政府が考えるべき 11 (12.4)  
6. どうすることもできない 9 (10.0)  
7. その他 4 (4.5) 8. N. A. 12 (13.5)
- (4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。
- ① 現在の農協の活動について満足していますか。
1. 満足 12 (13.5) 2. やや不満 31 (34.8)  
3. 不満 16 (18.0) 4. 期待していない 10 (11.2)  
5. その他 8 (9.0) 6. N. A. 12 (13.5)
- ② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。
1. 営農指導が不十分 17 (14.7)  
2. 集荷・流通が不合理 6 (5.2)  
3. 景気の動きに対応が遅い 12 (10.3)  
4. 購買価格が他業者にくらべ高い 25 (21.5)  
5. 販売営業に力をいれすぎる 14 (12.1)  
6. 共済に力をいれすぎる 14 (12.1)  
7. 職員の対応が不親切 4 (3.4)  
8. その他 2 (1.7) 9. N. A. 22 (19.0)
- ③ 今後、農協にはどういう点に重点をおいてほしいですか。
1. 営農指導の強化 29 (24.3)  
2. 農作物集荷の合理化 7 (5.9)  
3. 農用機械のアフターサービス 10 (8.4)  
4. 農薬・肥料等価格の値下げ 30 (25.2)  
5. 畜産の強化 ( )  
6. 付加価値の高い農作物の指導 15 (12.6)  
7. 請負耕作の斡旋 9 (7.6)  
8. その他 5 (4.2) 9. N. A. 14 (11.8)
- (5) 農後に、今後の農業についておたずねします。
- ① これからの農業にはどういう方策が望まれますか。
1. 大規模農家の育成 13 (11.5)  
2. 特産物をつくりだし、売りこむ 20 (17.7)  
3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生

- かす 4 (3.5)
4. 水稲作農家の保護 24 (21.2)
5. 兼業農家のための工場誘致 10 (8.9)
6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 5 (4.4)
7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 7 (6.2)
8. 上田市の農政の積極化 3 (2.7)
9. 政府の農業政策の転換 13 (11.5)
10. その他 4 (3.5) 11. N. A. 10 (8.9)
- ② あなたの家では今後どう農業をつづけていく予定ですか。
1. 積極的に拡張し、新しい農産物にも挑戦したい 2 (2.3)
2. すこし規模を広げたい 1 (1.1)
3. 現状維持 60 (67.3)
4. すこし経営規模を縮小したい 3 (3.4)
5. できればやめたい 8 (9.0)
6. 近い将来農業をやめる 2 (2.3)
7. その他 2 (2.3) 8. N. A. 11 (12.3)

## 〔西塩田地区〕

( ) %

I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。

(1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。

- ① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。
1. 専業 19 (25.0) 2. 第1種兼業 21 (27.6)
3. 第2種兼業 22 (28.9)
4. その他 1 (1.3) 5. N. A. 13 (17.2)
- ② あなたの家の耕地面積はつぎのどれですか。
1. 0.5 ha以下 14 (18.4)
2. 0.5～1.0 ha 22 (28.9)
3. 1.0～2.0 ha 25 (32.9)
4. 2.0 ha以上 5 (6.6) 5. N. A. 10 (13.2)
- ③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)
1. 稲 45 (54.2) 2. 麦・豆・芋 3 (3.6)
3. 果樹類 15 (18.1) 4. 工芸作物 2 (2.4)
5. 畜産類 3 (3.6) 6. 野菜 2 (2.4)
7. 花き 4 (4.8) 8. その他 ( )
9. N. A. 9 (10.9)

(2) 今後の農家経営についておたずねします。

① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。

1. はい 7 (9.2) 2. いいえ 42 (55.3)
3. へらしたい 8 (10.5) 4. わからない 10 (13.2)
5. その他 ( ) 6. N. A. 9 (11.8)

② これからどんな農作業に重点をおいてつくる予定ですか。

1. 稲 31 (37.3) 2. 麦・豆・芋 3 (3.6)
3. 果樹類 18 (21.7) 4. 工芸作物 3 (3.6)
5. 畜産類 2 (2.4) 6. 野菜 2 (2.4)
7. 花き 12 (14.5) 8. その他 1 (1.2)
9. N. A. 11 (13.3)

(3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについてうかがいます。

① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。

1. はい 8 (10.5) 2. いいえ 57 (75.0)
3. その他 2 (2.6) 4. N. A. 9 (11.9)

② 今後さらに請負わせる面積をひろげていく予定ですか。

1. はい 7 (9.2) 2. いいえ 49 (64.5)
3. へらしたい ( )
4. その他 3 (3.9) 5. N. A. 17 (22.4)

③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。

1. はい 16 (21.1) 2. いいえ 51 (67.1)
3. その他 ( ) 4. N. A. 9 (11.8)

④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。

1. はい 7 (9.2) 2. いいえ 42 (55.3)
3. へらしたい 3 (3.9)
4. その他 1 (1.3) 5. N. A. 23 (30.3)

(4) 減反についてうかがいます。

① あなたの家では減反により収入面でどのような影響をうけましたか。

1. 大幅な減収 34 (44.7)
2. わずかな減収 30 (39.6)
3. ほとんど影響なし 3 (3.9)
4. わずかに増収 1 (1.3)
5. 大幅な増収 ( )
6. その他 ( ) 7. N. A. 8 (10.5)

② 農作業にはどのような影響をあたえましたか。

1. 新しい農作物転換の機会をえた 3 (3.9)
2. 新業のあり方を考えさせられた 43 (56.6)
3. 失望してやる気を失わせた 13 (17.1)
4. 影響なし 7 (9.2)
5. その他 1 (1.3) 6. N. A. 9 (11.9)

II つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。

(1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが、それについてうかがいます。

① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。

1. 1～2 ha 9 (11.9) 2. 2～3 ha 22 (28.9)
3. 3 ha以上 32 (42.1)
4. その他 3 (3.9) 5. N. A. 10 (13.2)

② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。

1. はい 22 (28.9) 2. いいえ 20 (26.3)
3. わからない 25 (32.9) 4. その他 ( )
5. N. A. 9 (11.9)

(2) 農業以外の収入の途についておたずねします。

① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。

1. 各種製造工場 41 (52.6)
2. 卸・小売店 ( ) 3. サービス業 1 (1.3)
4. 飲食業 1 (1.3) 5. 観光 16 (20.5)
6. その他 4 (5.1) 7. N. A. 15 (19.2)

② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。

1. はい 57 (75.0) 2. いいえ 3 (4.0)
3. わからない 8 (10.5)

4. そうならないよう努力する( )  
 5. その他( ) 6. N. A. 8(10.8)
- (3) 農業後継者についておたずねします。  
 ① あなたの家の後継者はどなたですか。  
 1. 息子 47(61.8) 2. 娘 6(7.9)  
 3. いなし 12(15.8) 4. さがしている( )  
 5. その他 4(5.3) 6. N. A. 7(9.2)  
 ② 農業後継者について、今後どうすればよいでしょう。  
 1. 各自が努力 35(44.8)  
 2. 農家組合で努力 2(2.6)  
 3. 農協に頼む 7(9.0)  
 4. 上田市に依頼 2(2.6)  
 5. 政府が考えるべき 10(12.8)  
 6. どうすることもできない 10(12.8)  
 7. その他 1(1.3) 8. N. A. 11(14.1)
- (4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。  
 ① 現在の農協の活動について満足していますか。  
 1. 満足 12(15.8) 2. やや不満 27(35.5)  
 3. 不満 11(14.5) 4. 期待していない 8(10.5)  
 5. その他 7(9.2) 6. N. A. 11(14.5)  
 ② 現在の農協について不満だとすれば、それはつぎのどれですか。  
 1. 営農指導が不十分 13(12.4)  
 2. 集荷・流通が不合理 15(14.3)  
 3. 景気の動きに対応が遅い 16(15.2)  
 4. 販売価格が他業者に比べ高い 14(13.3)  
 5. 販売営業に力をいれすぎる 6(5.7)  
 6. 共済に力をいれすぎる 13(12.4)  
 7. 職員の対応が不親切 5(4.8)  
 8. その他( ) 2. N. A. 23(21.9)  
 ③ 今後、農協にはどういう点に重点をおいてほしいですか。  
 1. 営農指導の強化 24(24.0)  
 2. 農作物集荷の合理化 9(9.0)  
 3. 農用機械のアフターサービス 4(4.0)  
 4. 農薬・肥料等価格の値下げ 20(20.0)  
 5. 畜産の強化 2(2.0)  
 6. 付加価値の高い農作物の指導 22(22.0)  
 7. 請負耕地の斡旋 3(3.0)  
 8. その他 2(2.0) 9. N. A. 14(14.0)
- (5) 最後に、今後の農業についておたずねします。  
 ① これからの農業にはどのような方策が望まれますか。  
 1. 大規模農家の育成 5(4.8)  
 2. 特産物をつくりだし、売りこむ 22(21.1)  
 3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 14(13.5)  
 4. 水稲作農家の保護 14(13.5)  
 5. 兼業農家のための工場誘致 6(5.8)  
 6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 3(2.9)  
 7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 11(10.6)  
 8. 上田市の農政の積極化 7(6.7)  
 9. 政府の農業政策の転換 10(9.6)  
 10. その他( ) 11. N. A. 12(11.5)  
 ② あなたの家では今後どう農業をつづけていく

予定ですか。

1. 積極的に拡張し、新しい農産物にも挑戦したい 6(7.9)  
 2. すこし規模を広げたい 4(5.3)  
 3. 現状維持 44(57.9)  
 4. すこし経営規模を縮小したい 5(6.6)  
 5. できればやめたい 3(3.9)  
 6. 近い将来農業をやめる 2(2.6)  
 7. その他 1(1.3) 8. N. A. 11(14.5)

## 【東塩田地区】

( ) %

I それでは、最初に農家経営の現状についてうかがいます。

(1) まず、現在のあなたの農家経営についておたずねします。

① あなたの家はつぎのどれにあたりますか。

1. 専業 11(11.9) 2. 第1種兼業 38(41.3)  
 3. 第2種兼業 25(27.2)  
 4. その他 2(2.2) 5. N. A. 16(17.4)

② あなたの家の耕地面積は次のどれですか。

1. 0.5 ha以下 21(22.8)  
 2. 0.5～1.0 ha 37(40.2)  
 3. 1.0～2.0 ha 18(19.6)  
 4. 2.0 ha以上 6(6.5)  
 5. N. A. 10(10.9)

③ あなたの家の主たる農作物はつぎのどれですか。(農業収入の中で1番多いもの)

1. 稲 71(72.4) 2. 麦・豆・芋 2(2.0)  
 3. 果樹類 3(3.2) 4. 工芸作物 1(1.0)  
 5. 畜産類 1(1.0) 6. 野菜 1(1.0)  
 7. 花き 2(2.0) 8. その他 9(9.2)  
 9. N. A. 8(8.2)

(2) 今後の農家経営についておたずねします。

① あなたの家では、今後耕地面積を拡張する予定ですか。

1. はい 7(7.6) 2. いいえ 58(63.0)  
 3. へらしたい 6(6.5) 4. わからない 10(10.9)  
 5. その他 2(2.2) 6. N. A. 9(9.8)

② これからどんな農作物に重点をおいてつくる予定ですか。

1. 稲 63(63.0) 2. 麦・豆・芋 3(3.0)  
 3. 果樹類 10(10.0) 4. 工芸作物 2(2.0)  
 5. 畜産類( ) 6. 野菜 4(4.0)  
 7. 花き 5(5.0) 8. その他 4(4.0)  
 9. N. A. 9(9.0)

(3) 最近、農地、とりわけ水田の請負がすすんでいますが、それについてうかがいます。

① あなたの家では水稲作などを請負わせたことがありますか。

1. はい 14(15.2) 2. いいえ 67(72.8)  
 3. その他( ) 4. N. A. 11(12.0)

② 今後さらに請負わせる面積を広げていく予定ですか。

1. はい 3(3.3) 2. いいえ 64(69.6)  
 3. へらしたい 1(1.1)  
 4. その他( ) 5. N. A. 24(26.0)



③ あなたの家では水稲作などを請負ったことがありますか。

1. はい 14 (15. 2) 2. いいえ 66 (71. 7)  
3. その他 ( ) 4. N. A. 12 (13. 1)

④ 今後さらに請負う面積をひろげていく予定ですか。

1. はい 3 (3. 3) 2. いいえ 64 (69. 6)  
3. へらしたい 1 (1. 1)  
4. その他 ( ) 5. N. A. 24 (26. 0)

(4) 減反についてうかがいます。

① あなたの家では減反により収入面でどのような影響をうけましたか。

1. 大幅な減収 44 (47. 8)  
2. わずかな減収 33 (35. 9)  
3. ほとんど影響なし 5 (5. 4)  
4. わずかに増収 ( )  
5. 大幅な増収 ( )

② 農作業にはどのような影響をあたえましたか。

1. 新しい農作物転換の機会をえた 4 (4. 3)  
2. 農業のあり方を考えさせられた 47 (50. 0)  
3. 失望してやる気を失わせた 22 (23. 4)  
4. 影響なし 7 (7. 4)  
5. その他 2 (2. 1) 5. N. A. 12 (12. 8)

Ⅱ つぎに地域農業の発展にかかわることがらについておたずねします。

(1) 近年、中核(専業)農家の育成が叫ばれていますが都それについてうかがいます。

① 中核農家とはどの程度の耕地面積をもった農家と考えますか。

1. 1～2 ha 8 (8. 7) 2. 2～3 ha 30 (32. 6)  
3. 3 ha以上 36 (39. 1)  
4. その他 5 (5. 4) 5. N. A. 13 (14. 2)

② あなたの地域で中核農家の育成は可能でしょうか。

1. はい 17 (18. 5) 2. いいえ 31 (33. 7)  
3. わからない 33 (35. 9)  
4. その他 ( ) 5. N. A. 11 (11. 9)

(2) 農業以外の収入の途についておたずねします。

① 上田市域で農業外収入源として、次のどれに期待しますか。

1. 各種製造業 49 (51. 0)  
2. 卸・小売店 ( ) 3. サービス業 7 (7. 3)  
4. 飲食業 1 (1. 0) 5. 観光 17 (17. 7)  
6. その他 7 (7. 3) 7. N. A. 15 (15. 7)

② 農業以外の収入に依存する割合が今後ふえていくと思いますか。

1. はい 72 (78. 3) 2. いいえ 3 (3. 3)  
3. わからない 6 (6. 5)  
4. そうならないよう努力する 2 (2. 2)  
5. その他 ( ) 6. N. A. 9 (9. 7)

(3) 農業後継者についておたずねします。

① あなたの家の後継者はどなたですか。

1. 息子 56 (60. 9) 2. 娘 13 (14. 1)  
3. いない 8 (8. 7) 4. さがしている ( )  
5. その他 4 (4. 3) 6. N. A. 11 (12. 0)

② 農業後継者について、今後どうすればよいで

しょうか。

1. 各自が努力 48 (48. 5)  
2. 農家組合で努力 1 (1. 0)  
3. 農協に頼む 8 (8. 1)  
4. 上田市に依頼 1 (1. 0)  
5. 政府が考えるべき 15 (15. 2)  
6. どうすることもできない 14 (14. 1)  
7. その他 ( ) 8. N. A. 12 (12. 1)

(4) 農協の役割とこれからの課題についておたずねします。

① 現在の農協の活動について満足していますか。

1. 満足 13 (14. 1) 2. やや不満 34 (37. 0)  
3. 不満 20 (21. 7) 4. 期待していない 7 (7. 6)  
5. その他 7 (7. 5) 6. N. A. 11 (12. 0)

② 現在の農協について不満だとすれば、それは次のどれですか。

1. 営農指導が不十分 21 (14. 5)  
2. 集荷・流通が不合理 19 (13. 1)  
3. 景気の動きに対応が遅い 24 (16. 6)  
4. 購買価格が他業者に比べて高い 17 (11. 7)  
5. 販売営業に力をいれすぎる 12 (8. 3)  
6. 共済に力をいれすぎる 21 (14. 5)  
7. 職員の対応が不親切 9 (6. 2)  
8. その他 2 (1. 4) 9. N. A. 20 (13. 7)

③ 今後、農協にはどのような点に重点をおいてほしいですか。

1. 営農指導の強化 26 (19. 4)  
2. 農作物集荷の合理化 16 (11. 9)  
3. 農用機械のアフターサービス 13 (9. 7)  
4. 農薬・肥料等の値下げ 13 (23. 1)  
5. 畜産の強化 ( )  
6. 付加価値の高い農作物の指導 26 (19. 4)  
7. 請負耕作の斡旋 6 (4. 5)  
8. その他 2 (1. 5) 9. N. A. 14 (10. 5)

(5) 最後に、今後の農業についておたずねします。

① これからの農業にはどのような方策が望まれますか。

1. 大規模農家の育成 10 (7. 2)  
2. 特産物をつくりだり、売りこむ 22 (15. 8)  
3. 果樹・工芸作物・畜産など地域の特色を生かす 4 (2. 9)  
4. 水稲作農家の保護 26 (18. 7)  
5. 兼業農家のための工場誘致 22 (15. 8)  
6. 農産物を地域社会に供給しやすいようにする 13 (9. 4)  
7. 農協を中心に地域の活性化をはかる 10 (7. 2)  
8. 上田市の農政の積極化 7 (5. 0)  
9. 政府の農業政策の転換 15 (10. 8)  
10. その他 2 (1. 4) 11. N. A. 8 (5. 8)

② あなたの家では今後どう農業をつづけていく予定ですか。

1. 積極的に拡張し、新しい農作物にも挑戦したい 5 (5. 4)  
2. すこし規模を広げたい 6 (6. 5)  
3. 現状維持 59 (64. 1)  
4. すこし経営規模を縮小したい 9 (9. 8)  
5. できればやめたい 4 (4. 3)  
6. 近い将来農業をやめる ( )  
7. その他 1 (1. 1) 8. N. A. 8 (8. 8)

## 註

- (1) 小稿は、昭和 61、62 年度文部省科学研究費の助成を得た。なお小稿の前提として「塩田地区まちづくり」のための基礎的研究の一環として拙稿「地方都市近効農業の現況と課題」(1)と(2) (いずれも「長野大学紀要」第 8 巻 1 号および 4 号、1986 年 8 月、1987 年 5 月) がある。参照されたい。
  - (2) 「1985 年度農業センサス農業事業体調査結果の概要」農林水産省統計情報部 1985 年。『1985 年農業センサス第 1 巻都道府県別統計書 長野県』農林統計協会 1986 年
  - (3) 「上田市の人口」上田市役所 1986 年
  - (4) 中村政則『近代日本地主制史研究』1979 年
  - (5) 拙稿 前掲論文参照
  - (6) 清水洋二「西塩田村の農業構造」(西田美昭編著『昭和恐慌下の農村社会運動』1978 年所収) 戦前の塩田地区の状況を知る手がかりになる。
- (記) 小稿成るにあたって上田市、浦里、塩田各農業協同組合の生産部の方々、上田市役所企画調整課統計係の方々、また筆者の勤務する長野大学の学生である石川晃、浦沢博、篠原道朗、深沢弥栄彦などゼミナールの諸君、そして何よりも感謝せねばならないのは煩瑣なアンケートに答えてくれた農家の方々に記して深く謝す次第である。